

東関東自動車道  
宮野木高架橋塗替塗装工事

特記仕様書

令和6年6月

東日本高速道路株式会社 関東支社  
千葉管理事務所

# 目次

	頁
1. 工事概要	1
2. 適用する共通仕様書	2
3. 監督員、主任補助監督員の権限	2
4. 配置技術者に関する事項	2
5. 工事用地等に関する事項	5
6. 関連施設その他との関係	6
7. 作業日及び作業期間に関する事項	8
8. 関連工事に関する事項	10
9. 工事費構成内訳書に関する事項	10
10. 工程表及び履行報告に関する事項	11
11. 工事用材料に関する事項	11
12. 貸与品に関する事項	12
13. 保安に関する事項	12
14. 環境保全に関する事項	16
15. 再生資源及び建設副産物に関する事項	17
16. 現場環境改善に関する事項	18
17. 業務用プレート等に関する事項	18
18. 工事変更等検討会の設置	18
19. 週休2日工事	19
20. 工事細部に関する事項	20
21. 割掛対象表の項目に示す工事の内容	36
22. 補足事項	36

添付資料

様式－１	工程表
様式－２	工事履行報告
様式－３	残存物件調書
様式－４	再生資材供給可能量の照会について
様式－５	再生資材使用計画書
様式－６	工事記録情報 完了届
様式－７	不動産貸付申請書
様式－８	間接工事費計画書の提出について
様式－９、別添	間接工事費増加費用の負担額に関する協議書、変更間接工事費計画書
様式－１０	間接工事費増加費用見積書
様式－１１	間接工事費増加費用の負担同意書
様式－１２、別添	材料調達変更計画書の提出について、材料調達変更計画書
様式－１３	材料調達実績報告書の提出について
別添－１	取得報告書
別添－２－１	危険物チェックシート①
別添－２－２	危険物チェックシート②
別添－３	施工計画書・現場チェックリスト
別添－４	実績価格調査票

## 1. 工事概要

1-1 工事名 東関東自動車道 宮野木高架橋塗替塗装工事

### 1-2 工事箇所

東関東自動車道

(自) 千葉県千葉市美浜区若葉 [湾岸千葉IC (K P 1 1. 2)]

緯度 35° 39' 00" 経度 140° 03' 30"

(至) 千葉県成田市大山 [成田JCT (K P 4 4. 5)]

緯度 35° 47' 00" 経度 140° 18' 50"

京葉道路

(自) 東京都江戸川区篠崎 [篠崎IC (K P 2. 5)]

緯度 35° 42' 20" 経度 139° 54' 40"

(至) 千葉県千葉市稲毛区園生 [穴川IC (K P 2 3. 5)]

緯度 35° 38' 40" 経度 140° 06' 40"

新空港自動車道

(自) 千葉県成田市大山 [成田IC (K P 0. 0)]

緯度 35° 47' 00" 経度 140° 18' 50"

(至) 千葉県成田市取香 [新空港IC (K P 3. 2)]

緯度 35° 46' 30" 経度 140° 23' 00"

※ 座標については、国土地理院のホームページ「境界座標入力支援サービス」を利用すること。 <http://psgs2.gsi.go.jp/koukyou/rect/index.html>

### 1-3 施工内容

対象構造物及び施工内容

道路名	対象構造物（橋梁名）	施工内容
京葉道路	篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋	塗替塗装 5, 613. 0m <sup>2</sup>
東関東自動車道	宮野木高架橋	塗替塗装 4, 430. 2m <sup>2</sup>
		コンクリート表面処理工 245. 3m <sup>2</sup>
		はく落防止対策工 245. 3m <sup>2</sup>
	中長沼橋	塗替塗装 5, 732. 9m <sup>2</sup> 断面修復工 76. 5L コンクリート表面処理工 1493. 5m <sup>2</sup> はく落防止対策工 1493. 5m <sup>2</sup> コンクリートはつり工 0. 076m <sup>3</sup> 鋼桁補修工 1箇所
	木野子橋	塗替塗装 1, 456. 8m <sup>2</sup>
新空港自動車道	三塚橋	塗替塗装 759. 7m <sup>2</sup>

#### 1-4 コリンズへの工事概要及び位置情報の入力

土木工事共通仕様書 1-5 4 「コリンズへの登録」において、位置情報及び工事概要の項目は、特記仕様書の 1-2 「工事箇所」及び 1-3 「施工内容」の記載内容を入力するものとする。

#### 1-5 施工地域区分

- ・一般交通影響あり（1）  
：2車線以上（片側1車線以上）かつ断面交通量が5,000台/日以上  
の車道において車線変更を促す規制を行う場合の工事（常時全面通行止め  
の場合は含まない）
- ・市街地部（D I D地区及びこれに準ずる地区）が施工場所に含まれる場合  
の工事

### 2. 適用する共通仕様書

契約書第1条に規定する「土木工事共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）は、令和5年7月版とする。

### 3. 監督員、主任補助監督員の権限

#### 3-1 監督員の権限

契約書第9条第2項の規定に基づき監督員に委任した権限について、共通仕様書 1-6-1 「監督員の権限」の規定に次を加えるものとする。

- （16）「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号、最終改正令和4年6月17日法律第68号 以下「建設リサイクル法」という。）第18条の規定に基づく報告先

#### 3-2 主任補助監督員の権限

共通仕様書 1-6-3 「主任補助監督員」（2）のほか、主任補助監督員に委任した権限は次のとおりである。

- （1）共通仕様書に規定する監督員の権限のうち、下表の事項

章	項 目	内 容
1-2 5-1	安全対策	・安全教育の提出先
1-6 0	工事看板の設置	・設置が困難な場合の理由書の提出先
1 9-3-3	交通規制計画	・交通規制実施報告書の提出先
1 9-4-3	交通保安要員計画	・交通保安要員実施報告書の提出先

### 4. 配置技術者に関する事項

#### 4-1 配置技術者の資格及び工事経験

配置技術者に求める経験及び資格は、本工事の入札公告（説明書）、見積方依頼書、先発工事の入札公告（説明書）における随意契約条件のいずれか（以下「入札公告等」という。）に示すものとする。

#### 4-2 現場代理人等の常駐について

現場代理人等の常駐については、共通仕様書 1-7-2「現場代理人等の常駐」の規定によらず、次のとおりとする。

- (1) 現場代理人は、契約書第 10 条第 2 項の規定に基づき工事現場に常駐しなければならない。ただし、契約書第 10 条第 3 項の規定により次の各号に掲げる期間にあって、かつ監督員との連絡体制に支障をきたさない場合において、監督員の確認を得た場合にはこの限りではない。

- 1) 工期開始の日から共通仕様書 1-12 に示す着工日までの期間。
  - 2) 構造物の詳細設計が含まれている工事で、構造物の詳細設計期間であって、かつ工事現場が不稼働であること。
  - 3) 構造物の工場製作が含まれている工事で、構造物の工場製作期間であって、かつ工事現場が不稼働であること。
  - 4) 契約書第 20 条第 1 項及び第 2 項の規定に基づき、工事を全面的に一時中止している期間。
  - 5) 冬季休止期間等、設計図書に定める期間であって、かつ工事現場が不稼働であること。
- なお、上記 1)、2)、3) の期間については、設計図書に定めがない場合は、監督員と受注者との協議の上、工事打合簿により定めるものとする。

また、現場代理人は、技術研鑽のための研修、講習、試験等への参加、休暇の取得、その他合理的な理由により短期間工事現場を離れる場合は、次のいずれかの適正な施工ができる体制を確保するとともに、その体制について監督員の確認を得なければならない。

- 1) 契約書第 10 条第 2 項に基づく現場代理人の権限を行使する代理の技術者を配置できる体制。
- 2) 工事現場の運営及び取締り等に支障のない範囲内において、連絡を取りうる体制。
- 3) 工事現場の運営及び取締り等に支障のない範囲内において、必要に応じて現場に戻りうる体制。

ただし、監督員の確認を得た場合においても、受注者は契約上のいかなる責任または義務を免れるものではない。

- (2) 契約書第 10 条第 1 項の規定に基づき設置する主任技術者または監理技術者が専任を要する工事の場合において、次の各号に掲げる期間については専任を要しないものとする。

- 1) 工期開始の日から現場施工に着手するまでの期間（現場事務所等の設置、資器材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）。なお、現場施工に着手する日については、工事開始後、監督員との打合せにおいて定めるものとし、共通仕様書 1-54「コリンズへの登録」における技術者の従事期間についても同様とする。
  - 2) 構造物の詳細設計が含まれている工事で、構造物の詳細設計期間であって、かつ工事現場が不稼働であること。
  - 3) 構造物の工場製作が含まれている工事で、構造物の工場製作期間であって、かつ工事現場が不稼働であること。
  - 4) しゅん功届を提出後、共通仕様書 1-45 に示すしゅん功検査が終了し、事務手続等のみが残っている期間。
  - 5) 契約書第 20 条第 1 項及び第 2 項の規定に基づき、工事を全面的に一時中止している期間。
  - 6) 冬季休止期間等、設計図書に定める期間であって、かつ工事現場が不稼働であること。
- なお、専任とは、他の工事現場に係る職務を兼務せず、常時継続的に当該工事現場に係る職務にのみ従事することを意味するものであり、必ずしも当該工事現場への常駐を必要とするものではない。そのため、監理技術者等が技術研鑽のための研修、講習、試験等への参加、休暇の取得、その他合理的な理由で短期間工事現場を離れる場合は、次のいずれかの適切な施工ができる体制を確保するとともに、その体制について監督員の確

認を得なければならない。

- 1) 必要な資格（監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証）を有する代理の技術者を配置できる体制。
- 2) 工事の品質確保等に支障のない範囲において、連絡を取りうる体制。
- 3) 工事の品質確保等に支障のない範囲において、必要に応じて現場に戻りうる体制。

#### （３）主任技術者または監理技術者の職務

主任技術者または監理技術者等の職務は、建設工事の適正な施工を確保する観点から、当該工事現場における建設工事の施工上の管理をつかさどることである。施工上の管理とは、建設工事の施工に当たり、施工内容、工程、技術的事項、契約書及び設計図書の内容を把握したうえで、その施工計画を作成し、工事全体の工程の把握、工程変更への適切な対応等具体的な工程管理、品質確保の体制整備、検査及び試験の実施等及び工事目的物、工事仮設物、工事用資材等の品質管理を行うとともに、当該建設工事の施工に従事する者の技術上の指導監督を行うことである。このことから、工事現場への専任を要しない期間においても、適切な職務の履行に努めなければならない。

#### ４－３ 監理技術者の専任義務の緩和について

- （１）本工事において、建設業法第２６条第３項ただし書きの規定の適用を受ける監理技術者（以下「特例監理技術者」という。）の配置を行う場合は、以下のすべての要件を満たすものとする。
  - 1) 契約書第１０条第１項の規定に基づき監理技術者補佐を専任で配置すること。
  - 2) 監理技術者補佐は、一級施工管理技士補または一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第２７条の規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
  - 3) 監理技術者補佐は、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。
  - 4) 同一の特例監理技術者が配置できる工事の数は、当該工事を含め同時に２件（会社以外の他の機関が発注した工事を含む）までであること。
  - 5) 特例監理技術者が兼務できる工事は、以下に示す市町村の範囲とする。

##### イ) 対象範囲

下表に示す区間を通過する市町村

道路名	区 間	市町村
東関東自動車道	高谷 J C T ～ 潮来 I C	市川市、船橋市、習志野市、千葉市、四街道市 佐倉市、酒々井町、富里市、成田市、香取市 潮来市
京葉道路	一之江 I C ～ 穴川 I C	江戸川区、市川市、船橋市、習志野市、千葉市
首都圏中央連絡 自動車道	神崎 I C ～ 大栄 J C T	神崎町、成田市
新空港自動車道	成田 J C T ～ 新空港 I C	成田市

- 6) 特例監理技術者は、本工事の施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行できること。
  - 7) 特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
  - 8) 監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。
- （２）本工事の監理技術者が特例監理技術者として兼務及び監理技術者補佐の配置をする場合は、現場代理人等届及び次の内容が確認できる書類を提出するとともに、施工計画書等において特例監理技術者と監理技術者補佐の連絡体制について明示すること。
    - 1) 特例監理技術者が当該工事以外に兼務する工事名および工事内容

- 2) 監理技術者補佐の氏名、前項(1) 2)に規定する資格・3)に規定する入札参加者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあることを証する書類・8)に規定する監理技術者補佐が担う業務等
- (3) 本工事において、特例監理技術者と監理技術者補佐の配置を行う場合または配置を要さなくなったときは適切に工事实績情報システム(コリンズ)への登録を行うこと。
- (4) 本工事において、特例監理技術者と監理技術者補佐の配置を行った場合は、配置期間において施工体制点検等の場を活用して、前項(2)で提出された内容の確認を行う。

## 5. 工事用地等に関する事項

### 5-1 敷地の使用

共通仕様書1-9-2「受注者が確保すべき工事用地等」に規定する受注者が使用可能な発注者の敷地は下表のとおりとする。なお、本敷地は受注者に無償で貸与するものとし、使用の目的は本工事の実施に限るものとする。

名 称	篠崎ランプ橋仮置場
所 在 地	江戸川区篠崎(篠崎高架橋 A1 橋脚～P1 橋脚間高架下)
使 用 用 途	低濃度PCB廃棄物の集積箇所として使用するもの
敷 地	約200m <sup>2</sup>
期 間	工事期間中

名 称	宮野木高架橋仮置場
所 在 地	稲毛区宮野木町(雪氷基地)
使 用 用 途	低濃度PCB廃棄物の集積箇所として使用するもの
敷 地	約200m <sup>2</sup>
期 間	工事期間中

名 称	中長沼橋仮置場
所 在 地	稲毛区長沼原町(中長沼橋 千葉管理事務所第4駐車場内)
使 用 用 途	低濃度PCB廃棄物の集積箇所として使用するもの
敷 地	約200m <sup>2</sup>
期 間	工事期間中

名 称	木野子橋仮置場
所 在 地	佐倉市木野子(木野子橋 下り線KP30.2～KP30.3)
使 用 用 途	低濃度PCB廃棄物の集積箇所として使用するもの
敷 地	約100m <sup>2</sup>
期 間	工事期間中

名 称	三塚橋仮置場
所 在 地	成田市小菅(三塚橋 下り線KP0.2～KP0.3)
使 用 用 途	低濃度PCB廃棄物の集積箇所として使用するもの
敷 地	約100m <sup>2</sup>
期 間	工事期間中



## 6. 関連施設その他との関係

共通仕様書 1-10 「関係官公署及び関係会社への手続き」に示す本工事に関連する主な施設及び管理者は、下表のとおりとする。

### (1) 道路関係

道路等名	道路等管理者名	位 置	摘 要
国道 14 号	東日本高速道路(株) 千葉管理事務所	篠崎 A ランプ橋 (A 1 ~ P 4) 篠崎 B ランプ橋 (A 1 ~ P 4)	
都道江戸川堤防線	東京都建設局 第五建設事務所	篠崎 A ランプ橋 (P 4 ~ A 2) 篠崎 B ランプ橋 (P 4 ~ A 2)	
京葉道路	東日本高速道路(株) 千葉管理事務所	宮野木高架橋 (A 1 ~ A 2)	
国道 16 号	国土交通省 千葉国道事務所	中長沼橋 (A 1 ~ A 2)	
東関東自動車道	東日本高速道路(株) 千葉管理事務所	木野子橋 (A 1 ~ A 2)	
新空港自動車道	東日本高速道路(株) 千葉管理事務所	三塚橋 (A 1 ~ A 2)	

### (2) 規制関係

道路名	交通管理者名	摘 要
国道 14 号 (篠崎 A ランプ橋 A 1 ~ P 4) (篠崎 B ランプ橋 A 1 ~ P 4)	警視庁 小松川警察署	交通規制
都道江戸川堤防線 (篠崎 A ランプ橋 P 4 ~ A 2) (篠崎 B ランプ橋 P 4 ~ A 2)	警視庁 小松川警察署	交通規制
京葉道路 (宮野木高架橋 A 1 ~ A 2)	千葉県警察本部交通部 高速道路交通警察隊	交通規制
国道 16 号 (中長沼橋 A 1 ~ A 2)	千葉県 千葉北警察署	交通規制
東関東自動車道 (木野子橋 A 1 ~ A 2)	千葉県警察本部交通部 高速道路交通警察隊	交通規制
新空港自動車道 (三塚橋 A 1 ~ A 2)	千葉県警察本部交通部 高速道路交通警察隊	交通規制

## (3) 電力、通信施設関係

施設等名	施設等管理者名	位 置	摘 要
京葉道路 東関東自動車道 光通信ケーブル 電源ケーブル メタル通信ケーブル	東日本高速道路（株）	篠崎高架橋 篠崎Bランプ橋 中長沼橋 木野子橋	添架 添架 添架 添架
交通信号施設	警視庁 交通部 交通管制課	篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋	添架 添架
防災用発電装置	東日本高速道路（株）	篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋	
照明灯・照明配管(配線)	江戸川区 東日本高速道路（株）	篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋 中長沼橋	
電話通信線・幹線	東日本電信電話（株）	篠崎Aランプ橋	

## (4) 高架下占用施設関係

施設等名	施設等管理者名	位 置	摘 要
自転車集積所	江戸川区	篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋	
防災資材置場	江戸川区		
駐車場	東日本高速道路（株）		

上表（2）の高速道路等の交通規制に必要な協議（道路交通法第80条に基づく協議）については、原則として発注者が行うものとする。なお、高速道路等とは、当社が管理する道路（供用中の高速道路及び一般有料道路）をいう。

受注者は、上表以外の本工事に関係する施設等を発見したときは、監督員に通知し、監督員の指示に従わなければならない。

## 7. 作業日及び作業期間に関する事項

### 7-1 作業期間

共通仕様書 1-13 「作業日」の規定による他、下表に示す期間に作業を行ってはならない。  
やむを得ず作業を行う必要がある場合は、受注者は、事前にその理由を監督員に連絡するものとする。

期間（予定）	区 間	摘 要
令和6年12月下旬～令和7年1月上旬の14日程度	宮野木高架橋 木野子橋 三塚橋	高速道路等の交通規制を伴う工事
令和7年4月下旬～令和7年5月上旬の14日程度		
令和7年8月上旬～令和7年8月中旬の14日程度		
令和7年12月下旬～令和8年1月上旬の14日程度		
令和8年4月下旬～令和8年5月上旬の14日程度		
令和8年8月上旬～令和8年8月中旬の14日程度		
令和8年12月下旬～令和9年1月上旬の14日程度	篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋 中長沼橋	国道14号、 都道江戸川堤防線 国道16号の交通規制を伴う工事
令和6年12月下旬～令和7年1月上旬の14日程度		
令和7年3月1日～令和7年3月31日の1ヶ月		
令和7年4月下旬～令和7年5月上旬の10日程度		
令和7年7月中旬～令和7年8月中旬の35日程度		
令和7年12月下旬～令和8年1月上旬の14日程度		
令和8年3月1日～令和8年3月31日の1ヶ月		
令和8年4月下旬～令和8年5月上旬の10日程度		
令和8年7月中旬～令和8年8月中旬の35日程度		
令和8年12月下旬～令和9年1月上旬の14日程度		

なお、記載している期間は現時点での予定であり、詳細については別途監督員から指示するものとする。

### 7-2 夜間作業

単価表の項目において、（夜）と表記されているものについては、共通仕様書 1-13 の規定にかかわらず夜間作業を行うことが出来るものとする。

### 7-3 高速道路等の交通規制可能時間

施工区間における交通規制の区分による規制可能時間帯は、下表に示すとおりとする。ただし、交通規制による著しい渋滞の発生若しくはその恐れがある場合や、交通の危険及び異常気象時等により、監督員が規制の解除（工事中止）を指示した場合、また、監督員より規制可能時間帯の変更について指示した場合は、受注者はこれに従うものとする。

#### （1）東関東自動車道

上下別	施工区間	1車線規制 可能時間帯	2車線規制 可能時間帯	路肩規制 可能時間帯
上下	四街道IC～成田JCT	8:00 ～18:00	20:00 ～翌6:00	8:00 ～18:00

## (2) 京葉道路

上下別	施工区間	1車線規制 可能時間帯	2車線規制 可能時間帯	路肩規制 可能時間帯	※固定規制
上下	宮野木JCT～穴川西IC	21:00 ～翌6:00	-	21:00 ～翌6:00	終日可能

## (3) 新空港自動車道

上下別	施工区間	1車線規制 可能時間帯	2車線規制 可能時間帯	路肩規制 可能時間帯	※固定規制
上下	全区間	8:00 ～18:00	-	8:00 ～18:00	終日可能

※ 固定規制とは、施工ヤード確保のために仮設防護柵等を設置することにより、路肩等の交通規制を昼夜間連続で行うことができるものをいう。

なお、固定規制は土曜、日曜、祝日（振替休日を含む）及び特記仕様書7-1に示す期間も規制可能とする。

## 7-4 一般道の交通規制

下表に示すとおり、道路管理者との協議に基づき一般道において交通規制を予定している。また、交通規制の時期、時間帯及び回数は現時点における予定であり、変更が生じる場合は別途監督員から指示するものとし、受注者はこれに従わなければならない。なお、一般道の交通規制に要する費用は、諸経費に含むものとする。

## (1) 交通規制

道路名	時期	1車線規制 可能時間帯	摘 要
国道16号	工事期間中	20:00～翌6:00	吊足場設置撤去時
国道14号	工事期間中	20:00～翌6:00	吊足場設置撤去時

## (2) 片側交互通行

道路名	時期	片側交互通行規制 可能時間帯	摘 要
都道江戸川堤防線	工事期間中	20:00～翌6:00	吊足場設置撤去時

## 8. 関連工事に関する事項

8-1 契約書第2条に規定する発注者または他の機関の発注に係る第三者が施工する他の工事は下表のとおりとする。

工事名	主な関連事項	予定工期	施行主体	受注者名
千葉管内 道路保全工事業務	工事区間の重複	通年	東日本 高速道路(株) 千葉管理 事務所	(株)ネクスコ・ メンテナンス関東
施設保全工事業務		通年		(株)ネクスコ東日本 エンジニアリング
保全点検業務		通年		(株)ネクスコ東日本 エンジニアリング
道路詳細点検業務		通年		(株)ネクスコ東日本 エンジニアリング
東関東自動車道 千葉北～佐原香取間 橋梁補修工事		令和4年8月24日～ 令和6年12月10日		建装工業(株)
東関東自動車道 宮野木～千葉北間 橋梁補修工事		令和4年9月27日～ 令和7年8月11日		建装工業(株)
東関東自動車道 成田～潮来間 橋梁補修工事		令和5年9月1日～ 令和8年3月18日		ショーボンド 建設(株)
千葉管理事務所管内 橋梁補修工事		未定		未定

なお、記載している工事は現時点での予定であり、追加及び変更が生じる場合は別途監督員から指示するものとする。

この他に千葉管理事務所で行う規制調整会議（毎週火曜日）に出席し、当該工事の規制に関連する工事及び受注者と調整するものとする。

8-2 契約書第2条に規定する発注者または他の機関の発注に係る第三者の施工する他の工事が施工上密接に関連する施工箇所及び本工事における着手可能時期は下表のとおりとする。

施工箇所	着手可能時期	工事名	受注者名
宮野木高架橋	令和7年8月中旬	東関東自動車道 宮野木～千葉北間橋梁補修工事	建装工業(株)
中長沼橋	令和7年4月中旬	照明移設工事	東日本高速道路(株)
篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋	令和8年4月中旬	信号機移設工事	警視庁 交通部 交通管制課

## 9. 工事費構成内訳書に関する事項

9-1 工事費構成内訳書の提出

契約書第3条第1項に規定する「設計図書に基づく工事費構成内訳書」は、土木関係書類提出マニュアル（様式第15号）のとおりとする。

なお、提出は土木関係書類提出マニュアル（様式第14号）及び共通仕様書1-19-1「工程表の提出」で規定する工程表（様式-1）と合わせて提出するものとする。また、工事費構成内訳書の提出は、当初契約締結時とし、契約変更時の提出は要しないものとする。

## 10. 工程表及び履行報告に関する事項

共通仕様書 1-19-1 「工程表の提出」及び 1-19-2 「履行報告」に規定する工程表（様式-1）の記入方法は次のとおりとし、履行報告書（様式-2）と合わせて提出するものとする。

### (1) 共通仕様書 1-19-1 「工程表の提出」に規定する工程表

- 1) 準備工・後片付けは、工程のみを棒グラフで記入する。
- 2) 準備工・後片付け以外の項目は、工程を棒グラフで記入し、棒グラフの上段に各月ごとに累計計画出来高（%）を記入する。
- 3) 右側摘要部分の目盛に従い計画出来高累計曲線を記入する。
- 4) 工程表に示す項目は下表のとおりとする。

工程表の項目	単価表の項目
塗替塗装工 篠崎 A ランプ橋	塗替塗装 交通保安要員
塗替塗装工 篠崎 B ランプ橋	塗替塗装 交通保安要員
塗替塗装工 宮野木高架橋	塗替塗装 コンクリート表面処理工、はく落防止対策工 交通規制工、交通保安要員、仮設防護柵工
塗替塗装工 中長沼橋	塗替塗装 コンクリート表面処理工、断面修復工、はく落防止対策工 コンクリートはつり工、鋼桁補修工 交通保安要員
塗替塗装工 木野子橋	塗替塗装 交通規制工、交通保安要員
塗替塗装工 三塚橋	塗替塗装 交通規制工、交通保安要員、仮設防護柵工

### (2) 共通仕様書 1-19-2 「履行報告」に規定する工程表

前項、工程表に次の事項を記入し報告するものとする。

- 1) 棒グラフの下段に当月までの累計実施出来高を記入し、翌月以降の予定を（ ）で記入する
- 2) 計画出来高累計曲線に当月までの累計実施出来高及び翌月以降の予定を点線で記入する。

## 11. 工事用材料に関する事項

### 11-1 ウォータージェット工法に使用する水

ウォータージェット工法に使用する水については、清水（水道水）とし受注者が準備するものとするが、下表に示す連絡等施設内の当社給水設備より給水できるものとし、当社給水設備より給水する場合は有償とする。なお、これに要する費用については、関連する単価に含まれるものとし別途支払いは行わないものとする。

連絡等施設名	単価（税抜き）
富里 IC 内プラーザ	330 円/m <sup>3</sup>

上表に示す単価は現時点の単価であり、変更する場合がある。

## 1 2. 貸与品に関する事項

### 1 2-1 貸与品

契約書第15条第1項に基づく貸与品は、下表のとおりとし、設計図書に定められた使用目的以外に資機材を使用してはならない。

なお、資機材の使用は無償とするが、機械類の運転に要する燃料、油脂、現場修理及び管理等に要する費用は、関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。また、受注者の責によらない事由により、規制機材等の貸与が受けられない場合は、監督員と受注者との協議し定めるものとする。

品名	規格等	数量	引渡場所	貸与期間
標識車	2 t	1 台	千葉管理事務所	工事期間中
車載式標識	車載用LED標識	2 基		
交通規制標識類	高速道路等の交通規制に必要な数量	1 式		

## 1 3. 保安に関する事項

### 1 3-1 安全管理の強化

#### 1 3-1-1 第三者被害を想定した重大事故防止の取組み

##### (1) 定義

第三者被害を想定した重大事故防止の取組みとは、第三者への被害が想定される事故や供用中道路の通行止めや大渋滞に至る事故等（以下「重大事故リスク」という。）について、受発注者が一体となって安全向上に努める取組みをいう。

##### (2) 実施手順

##### 1) 施工計画への反映

受注者は、設計図書及び関係法令に基づき、重大事故リスクの抽出を行い、それらに対する安全対策について施工計画書に記載するものとする。

##### 2) 受発注者間の協議

発注者は、受注者から監督員に施工計画書の提出がされたときは、受発注者合同で施工計画書に示された重大事故リスクに関して施工計画書及び設計図書並びに現場確認を通して安全対策に不足が無いか確認（以下「重大事故リスクマネジメント」という。）を行うものとする。

受注者は、協議の結果、施工計画書の修正が必要なときは修正された施工計画書を監督員に提出するとともに、受注者の全ての職員・作業員に対して実施すべき内容を伝達し確実に実施するものとする。

##### 3) 施工条件等の変更時の取扱い

発注者及び受注者は、施工条件等が変更となった場合は、前記1)及び2)で抽出し対策を定めた内容に変更が生じるときは改めて、前記1)及び2)の手順により受発注者合同で重大事故リスクマネジメントを行うものとする。

#### 1 3-1-2 現場内の安全管理

施工計画書に基づく作業手順の徹底及び安全管理責任者による現場の管理・確認と是正指導を徹底するものとする。

#### 1 3-1-3 新規入場者教育

新規入場者教育については、下請会社の統制、教育終了の確認、教育未了者の入場抑止手段などに留意して、受注者が確実に実施するものとする。

#### 1 3 - 1 - 4 注意喚起の方法

発注者が提供する他工事の事故情報に基づき実施する注意喚起や現場点検にあたっては、当該工事に状況を置き換え、点検項目を設定するなどより具体的に実施し、不備があれば速やかに改善するものとする。

#### 1 3 - 1 - 5 工事用車両後退時の安全対策

受注者は、工事用車両の後退時においては電子ホイッスル、ハンズフリータイプのトランシーバー等の使用等、誘導員が後退する車両への指示を確実に伝達できる対策を講じるものとする。

工事用車両の後退が夜間となる場合は、発光式の脚絆、発光式のアームバンド等を装着等、誘導員の視認性を向上させる対策を講ずるものとする。

また、上記対策について、施工計画書を監督員に提出するとともに、作業手順書への記載とKY等の実施により関連する全ての職員・作業員に対して指導を徹底するものとする。

#### 1 3 - 1 - 6 資機材落下防止

特に道路・鉄道との交差または近接箇所及び高速道路等での資機材の飛散・落下に伴う公衆災害の防止対策について徹底するものとする。

#### 1 3 - 1 - 7 標識等の設置

共通仕様書 1 - 2 5 - 1 (1) 及び (4) に示す第三者の安全措置として、必要とする箇所及び期間において、工事標示板、注意喚起表示及び安全施設類を設置するものとする。

また、現道を掘削する場合や迂回路を設ける場合等は、堅固なバリケード、保安灯等による施工箇所の明示により、交通車両及び一般通行人の転落を未然に防止する措置を講ずるものとする。

#### 1 3 - 1 - 8 現場内の安全整備

受注者は、工事地域内の安全管理上の監視及び不稼働日の保安に係る巡視を行う者は、常に腕章を着用してその所在を明らかにするとともに、警笛等の安全指示器を携行して安全確保のための合図、水溜りの有無、現場の整理整頓及び後片付け状況等、現場内確認及び点検を行うものとする。なお、これらに要する費用は諸経費に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

### 1 3 - 2 交通安全管理の徹底

#### 1 3 - 2 - 1 桁下空間の確保

橋梁上部工（橋梁補修）の施工箇所における桁下高さ及び交差する道路等及び道路等の建築限界は下表に示すとおりとし、施工に伴う吊足場工及び支保工等の仮設物を設置する場合は、交差道路等の通行に支障のないよう桁下空間を確保するものとする。なお、交差道路の建築限界を確保することができない場合は、道路管理者及び交通管理者との協議を踏まえ迂回道路の計画と適切な安全対策を講じるものとする。

施工箇所	交差道路名	桁下高さ	建築限界	摘要
篠崎Aランプ橋	都道江戸川堤防線	4. 9 m	4. 5 m	P 4 ~ A 2
篠崎Bランプ橋	都道江戸川堤防線	4. 9 m	4. 5 m	P 4 ~ A 2
宮野木高架橋	京葉道路	6. 8 m	4. 5 m	P 7 ~ A 2
中長沼橋	国道16号	4. 7 m	4. 5 m	A 1 ~ A 2
木野子橋	東関東自動車道	5. 3 m	4. 5 m	A 1 ~ A 2
三塚橋	新空港自動車道	5. 3 m	4. 5 m	A 1 ~ A 2



### 1 3 - 3 交通規制等

#### 1 3 - 3 - 1 高速道路等の交通規制

- (1) 高速道路等の交通規制は、本特記仕様書 7 - 3、20 - 6 及び道路交通法第 80 条の規定に基づく協議に従い実施するものとする。
- (2) 受注者は、監督員が接近して施工を行う他工事と調整を行い、同一規制内での施工を指示した場合、これに従うものとし、他工事の円滑な施工及び調整に協力するものとする。

#### 1 3 - 3 - 2 一般道の交通規制

一般道の交通規制は、本特記仕様書 7 - 4 及び当該道路の道路管理者及び交通管理者との協議に従い実施するものとする。

#### 1 3 - 3 - 3 交通保安要員の配置

交通保安要員は、設計図及び本特記仕様書 20 - 7 の規定に示す配置種別、配置場所、配置人数、配置時間及び期間にて適切に配置するものとする（交通規制工に含む交通監視員は除く）。また、受注者は、共通仕様書 19 - 3 - 3 「交通規制計画」及び 19 - 4 - 3 「交通保安要員計画」において、交通保安要員の実施内容、安全対策、車両等の誘導方法について、施工計画書を監督員に提出するものとする。

#### 1 3 - 3 - 4 交通規制内の作業員の安全対策

高速道路等本線上における交通規制内の路上作業関係者に対し、お客さま車両等の誤侵入による事故を防止するため、交通監視員が簡易的に手元で危険を通知する警報装置等（警報付安全旗や大音量電子ホイッスル等）の装備を講じるとともに、交通監視員から路上作業関係者への危険伝達・避難方法などを確認するための避難訓練を実施するものとする。

#### 1 3 - 3 - 5 保険の付保

保険の付保については、共通仕様書 1 - 55 - 1 「保険の付保」によらず、次のとおりとする。

- ・契約書第 57 条に規定する火災保険、建設工事保険、その他の保険（賠償責任保険は除く）の付保は任意とし、賠償責任保険（支払限度額 1 億円以上）は付保するものとする。

### 1 3 - 4 光通信ケーブル等損傷事故防止対策

#### 1 3 - 4 - 1 光通信ケーブル等損傷事故の防止

受注者は、高速道路に埋設されている光通信ケーブル等管路の損傷事故を防止するために埋設物近接箇所の工事の施工にあたっては、東日本高速道路（株）、KDDI（株）「光通信ケーブル等損傷事故防止マニュアル「関東支社版」（令和 5 年 8 月）」（以下「ケーブル等事故防止マニュアル」という。）に基づき万全の措置を講じるものとする。なお、「ケーブル等事故防止マニュアル」は契約後に貸与する。

#### 1 3 - 4 - 2 光通信ケーブル等損傷事故防止監理者

- (1) 受注者は、高速道路に埋設されている光通信ケーブル等管路の損傷事故を防止するため、工事の計画、現場指導等の強化を実施する専任の光通信ケーブル等損傷事故防止監理者を定め、監督員に通知するものとする。
- (2) 光通信ケーブル等損傷事故防止監理者は、「ケーブル等事故防止マニュアル」の内容を十分理解し、光通信ケーブル等管路の損傷事故防止に関して万全の措置を講じられるよう作業員に安全教育の徹底を図り、指導及び監督を行うものとする。また、試掘時及び近接工事作業時に現場に立会い、事故防止に関する指導、監督を行うものとする。

- (3) 光通信ケーブル等損傷事故防止監理者は、現場代理人・主任技術者（監理技術者）及び専門技術者と兼ねることができるものとする。

#### 1 3 - 4 - 3 光通信ケーブル等の確認等について

- (1) 光通信ケーブル等については、設計図書及び貸与された資料等を確認のうえ、詳細の確認方法、試掘の実施判断、試掘方法等の検討に当たっては、「ケーブル等事故防止マニュアル」に基づき適切に行うものとする。

- (2) 本工事に近接する光通信ケーブル等は、下表のとおりとする。

種別	管理者	箇所	条件等	貸与する資料	摘要
光通信ケーブル 電源ケーブル メタル通信ケーブル	東日本高速道路(株)	篠崎高架橋 篠崎Bランプ橋 中長沼橋 木野子橋	添架	管理用図面	

#### 1 3 - 5 架空線等上空施設及び地下埋設物関連事故の防止対策

##### 1 3 - 5 - 1 架空線等上空施設及び地下埋設物関連事故の防止

受注者は、一般道に位置する架空線等上空施設及び地下埋設物の損傷事故を防止するために近接箇所の工事の施工にあたっては、「架空線等上空施設及び地下埋設物関連事故防止マニュアル[Ver. 1. 2]（平成28年10月・東日本高速道路（株）関東支社）」（以下「埋設物等事故防止マニュアル」という。）に基づき万全の措置を講じるものとする。なお、「埋設物等事故防止マニュアル」は契約後に貸与する。

##### 1 3 - 5 - 2 埋設物等損傷事故防止監理者

- (1) 受注者は、一般道に位置する架空線等上空施設及び地下埋設物の損傷事故を防止するため、工事の計画、現場指導等の強化を実施する専任の「埋設物等損傷事故防止監理者」（以下「損傷事故防止監理者」という。）を定め、監督員に通知するものとする。
- (2) 損傷事故防止監理者は「埋設物等事故防止マニュアル」の内容を十分理解し、埋設物等の損傷事故防止に関して万全の措置を講じられるよう作業員に安全教育の徹底を図り、指導及び監督を行うものとする。また、試掘及び近接工事作業時に立会い、事故防止に関する指導、監督を行うものとする。
- (3) 損傷事故防止監理者は、現場代理人・主任技術者（監理技術者）及び専門技術者（光通信ケーブル等損傷事故の防止の事項を記載している場合は光ケーブル等損傷事故防止監理者を含む）と兼ねることができるものとする。

##### 1 3 - 5 - 3 架空線等上空施設の確認等について

- (1) 本工事区間に近接する架空線等上空施設については、貸与された資料等を確認の上、詳細については、現地で確認するものとする。

(2) 本工事区間に近接する架空線等上空施設は、下表のとおりである。

施設の種類	管理者	箇所	条件等	摘要
電線	江戸川区	篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋 A1～P4	近接施工	
電話線・ケーブル	東日本電信電話(株)	篠崎Aランプ橋 A1, P3～A2	近接施工	
交通信号施設	警視庁 交通部 交通管制課	篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋 A2付近	近接施工	

### 1 3 - 6 保安に関する費用

(1) 本特記仕様書 1 3 - 3 - 1 「高速道路等の交通規制」、1 3 - 3 - 3 「交通保安要員の配置」に要する費用は、単価表の項目で支払いを行うものとする。また、それら以外に要する費用は諸経費に含むものとし、別途支払は行わないものとする。

## 1 4. 環境保全に関する事項

### 1 4 - 1 砂塵等の防止

受注者は、工事用機械及び車両の走行による砂塵等の被害を第三者に及ぼさないよう善良な管理を行うものとする。

### 1 4 - 2 騒音等に関する配慮

受注者は、施工に伴う工事用機械及び車両の騒音対策について、近隣の地域住民へ十分な配慮を講じて施工を行うものとする。

### 1 4 - 3 汚濁水処理

WJ工法により生ずる汚濁水は、関係法令に従って処理を行った後、放流するものとする。なお、受注者は、汚濁水の処理方法について記載した施工計画書を監督員に提出するものとする。

### 1 4 - 4 高速道路の環境美化

受注者は、工事の施工に伴う交通規制の実施にあたり、その規制区間内のゴミ等を除去する等、高速道路の環境美化に努めるものとする。

### 1 4 - 5 環境保全に関する費用

環境保全に関する事項のうち、本特記仕様書 1 4 - 3 「汚濁水処理」に定める泥土（建設汚泥）の処分に要する費用以外の費用については、関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。

## 1 5. 再生資源及び建設副産物に関する事項

### 1 5-1 建設副産物の活用等

(1) 共通仕様書 1-28 「建設副産物」の規定に基づき指定する建設副産物の取扱いは、下表のとおりとする。

建設副産物の種類	発 生 場 所	数 量	活用方法等
廃塗膜・ケレンかす	篠崎 A ランプ橋 篠崎 B ランプ橋 宮野木高架橋 中長沼橋 木野子橋 三塚橋 塗替塗装	—	—
研削材	篠崎 A ランプ橋 篠崎 B ランプ橋 宮野木高架橋 中長沼橋 木野子橋 三塚橋 塗替塗装	—	—
廃プラスチック	篠崎 A ランプ橋 篠崎 B ランプ橋 宮野木高架橋 中長沼橋 木野子橋 三塚橋 塗替塗装	—	—
コンクリート塊	中長沼橋 コンクリートはつり工	0. 1 7 5 t	再資源化施設
建設汚泥	宮野木高架橋 中長沼橋 コンクリートはつり工 コンクリート表面処理工	—	—

(2) 再資源化をする施設の名称及び所在地

特定建設資材 廃棄物の種類	施設の名称	所 在 地	受 入 条 件
コンクリート塊	三宝建設 (株)	千葉県習志野市 茜浜 1-4-1	受入時間：8：00～17：00 受入可能日：月曜～土曜(祝日を除く) 廃材の大きさ制限： 最大寸法 30 cm 以下

記載している事項については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。  
なお、受注者が提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

- (3) 研削材、建設汚泥の処理に要する費用については監督員と受注者で協議し定めるものとする。
- (4) 監督員立会いの下、各発生場所にて種類及び数量を確認し適切な処理を行うものとする。
- (5) 篠崎Aランプ橋・篠崎Bランプ橋・宮野木高架橋・中長沼橋・木野子橋・三塚橋にて発生する廃塗膜・ケレンかす、廃プラスチックは本特記仕様書5-1に示す仮置場に集積し、適切に保管するものとする。

#### 1.6. 現場環境改善に関する事項

受注者は、工事現場の現場環境改善を図るため、現場事務所、作業員宿舍、休憩所または作業環境等の改善を行い、快適な職場を形成するとともに、地域との積極的なコミュニケーション及び現場周辺的美装化に努めるものとする。

実施する内容については以下のとおりとし、共通仕様書1-20-1「施工計画書の提出」に規定する施工計画書に具体的な実施方法を記載するものとする。本件に関する費用については、諸経費に含むものとし、別途支払いは行わない。

ただし、監督員が高速道路事業のPR用に特別な看板の設置等を指示した場合は、その指示に従うものとし、これに要する費用は、監督員と受注者で協議し定めるものとする。

計上費用	実施する内容（率計上分）
現場環境改善（仮設備関係）	・昇降設備の充実
現場環境改善（営繕関係）	・現場休憩所の快適化
現場環境改善（安全関係）	・盗難防止対策（警報機等） ・避暑（熱中症予防）
地域連携	・社会貢献

#### 1.7. 業務用プレート等に関する事項

発注者は、本工事の施工に必要な車両が下表に示す道路に乗り入れる場合は、業務用プレート（ETC専用）を受注者の申請により交付する。

受注者は、業務用プレート（ETC専用）を適正に使用し管理するとともに、本工事の施工以外の目的に使用してはならない。

道 路 名	区 間	備 考
京葉道路	武石IC ～ 穴川IC間	交通規制の設置、撤去に関わる資材運搬車、標識車
東関東自動車道	四街道IC ～ 酒々井IC間 富里IC ～ 成田JCT	
新空港自動車道	成田JCT ～ 新空港IC間	

#### 1.8. 工事変更等検討会の設置

本工事は、工事の変更手続きの透明性及び公正性の向上や適正な工期確保を目的に、発注者と受注者が一堂に会して、工事の変更等の妥当性の審議及び工事工程クリティカルパス等の共有並びにこれらに伴う工事中止等の判断等を行う場として開催する「工事変更等検討会」の試行対象工事である。

「工事変更等検討会」の運用にあたっては、契約締結後、監督員より別途通知するものとする。

## 1 9 . 週休 2 日工事

本工事は、監督員と受注者双方が工程調整を行うことにより、週休 2 日を達成するよう工事を実施する「週休 2 日工事（発注者指定方式）」である。

### 1 9 - 1 定 義

- (1) 「週休 2 日」とは、対象期間において、4 週 8 休以上の現場閉所を行ったと認められる状態をいう。
- (2) 「対象期間」とは、次の各号に掲げる期間を除く工事着手日から工事が完成した日までの期間をいう。
  - ① 共通仕様書 1 - 1 3 「作業日」に規定する 1 2 月 2 9 日から翌年 1 月 3 日まで及び夏期休暇（3 日）の期間
  - ② 共通仕様書 1 - 3 5 「工事の一時中止」に規定する工事全部を中止する期間
  - ③ 工事製作のみを実施している期間
  - ④ 冬期休止期間等特記仕様書に規定する発注者が工事全体を施工対象外としている期間
- (3) 「4 週 8 休以上」とは、対象期間内の現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が 2 8 . 5 % 以上（8 日 / 2 8 日）以上の水準に達する状態をいう。
- (4) 「現場閉所」とは、巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて 1 日を通して現場や現場事務所が閉所された状態をいう。なお、降雨・降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。

### 1 9 - 2 履行確認（週休 2 日確保の確認方法）

- (1) 現場閉所を行うときは、工程会議等により監督員が事前に把握している場合を除き、事前に監督員にメール等で連絡を行うものとする。
- (2) 受注者は、工事完了後に、週休 2 日の取得結果が確認できる「取得報告書」（別紙 - 1）を作成し、監督員へ提出するものとする。また、工事途中において、監督員より「取得報告書」の作成及び提出を求められた場合は、その求めに応じるものとする。
- (3) 監督員は、受注者から提出された「取得報告書」を基に、週休 2 日の取得状況を確認するものとする。
- (4) 履行確認の結果、4 週 8 休以上の現場閉所率に満たないものは、請負代金額を減額変更するものとする。

### 1 9 - 3 工 期

本工事は、共通仕様書 1 - 1 2 「着工日」の規定によらず、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間を設定した工事であり、発注者が示した工事着手期限までの間で、受注者は工事の始期を任意に設定することができる。

余裕期間内は、主任技術者または監理技術者を設置することを要しない。また、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、現場事務所等の設置、資材の搬入、仮設工事または測量等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

契約締結後において、余裕期間内に受注者の準備が整った場合は、「工事打合簿」を監督員に提出し協議の上、工事に着手することができるものとする。

余裕期間（工事着工期限）：契約保証取得の日の翌日から 1 2 0 日間

### 1 9 - 4 週休 2 日工事に要する費用

#### 1 9 - 4 - 1 補正対象項目及び補正方法

見積活用方式を採用する工事において、見積対象とした項目においては、最終参考見積書の内訳（材料、労務費、機械経費、その他、割掛費等）を確認し、週休 2 日に係る費用が含まれていないものについては、N E X C O の土木工事積算基準 第 35 編「週休 2 日（4 週 8 休）工事の積算」の規定に基づき補正額を算出するものとする。

また、週休2日の確保を本特記仕様書19-2「履行確認（週休2日確保の確認方法）（2）」による確認後、4週8休以上の現場閉所率に満たないものは、請負代金額のうち補正分を減額変更するものとする。

なお、減額費用の算出方法等の取扱いについては、共通仕様1-33-1「新単価」の規定によるものとし、見積対象とした項目においては、最終参考見積書に記載している週休2日推進に係る費用の内訳（材料、労務費、機械経費、その他、割掛費等）に基づき減額変更を行うものとする。最終参考見積書に内訳の記載がないものについては、NEXCOの土木工事積算基準 第35編「週休2日（4週8休）工事の積算」により減額費用を算出するものとする。

#### 19-4-2 支払

週休2日工事に要する費用は、関連する単価項目の単価に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

### 20. 工事細部に関する事項

#### 20-1 施工計画書

共通仕様書1-20-1「施工計画書の提出」に次を追加する。

- 1) 光通信ケーブル等損傷事故防止の対策
- 2) 架空線等上空施設及び地下埋設物関連事故防止の対策

#### 20-2 作業時間帯による単価表の表記区分

単価表の項目末尾名称に、施工橋梁に応じて下表に示す区分表記を行うものとする。

作業時間帯	単価表の項目末尾の表記	備 考
夜間作業	(夜)	
昼間作業	無表記	

#### 20-3 塗替塗装

共通仕様書17-4「塗替塗装」に下記を追加する。

##### 20-3-1 種別

塗替塗装の種別に次を追加する。

単価表の項目	区分内容	摘要
塗膜除去A	鉛等有害物を含有する塗料の素地調整に先立ち、湿潤化によるはく離やかき落とし作業を行うもの。	篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋 宮野木高架橋 中長沼橋 木野子橋 三塚橋

##### 20-3-2 塗膜の除去

受注者は、「鉛等有害物を含有する塗料の剥離やかき落とし作業における労働者の健康障害防止について（平成26年5月30日付け 厚生労働省労働基準局通達）及び「剥離剤を使用した塗料の剥離作業における労働災害防止について（令和2年10月19日付け 厚生労働省基準局通達）」（以下「厚労省通達」という。）に基づき、鉛等有害物を含有する塗料の素地調整に先立ち、湿潤化による剥離やかき落とし作業を行うものとする。

### 20-3-3 施工計画書

受注者は、共通仕様書1-20「施工計画書」によるほか、厚労省通達、関連法令及び構造物施工管理要領Ⅲ-2-1に基づくとともに土木研究所資料「土木鋼構造物用塗膜剥離剤ガイドライン（案）改訂第2版、平成29年3月（以下「ガイドライン（案）」という。）」に準拠し、工事着手前に次の各号に掲げる事項の細部計画を記載した施工計画書を監督員に提出するとともに、立案した施工計画については労働基準監督への確認を行い、塗膜除去工の作業を実施しなければならない。

なお、監督員は提出された施工計画書に不備もしくは明らかなかし等がある場合には、受注者に対し修正を求めることができるものとする。

- 1) 計画工程表
- 2) 安全管理体制
  - ・喫煙場所及び足場内への火気持込禁止措置
  - ・外部からの点火源の侵入防止対策
  - ・ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤を使用する場合、作業箇所における明示方法及び作業員以外の立ち入り禁止措置の方法
  - ・ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の取扱い作業における作業員の常時状況把握の体制構築
  - ・ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の吹き付け作業と塗膜除去作業の近接作業禁止措置
  - ・作業中止の措置
- 3) 塗装の除去方法及び主要材料
  - ・使用する塗膜剥離剤の製品名
  - ・塗膜剥離剤の使用量及び塗布回数（計画）
  - ・塗膜剥離剤による塗膜除去困難箇所の範囲と残存する塗膜厚の目標値（平均）
  - ・塗膜除去完了後の確認方法（乾式ブラスト施工前）
  - ・養生シート等全てのシートの難燃性能又は防火性能
  - ・塗膜くずの搬出及びその頻度
  - ・安全データシート（SDS）及び製品の取扱い説明書の安全上の留意事項の厳守
- 4) 使用する剥離剤の危険物に該当の有無
  - ・ガイドライン（案）の品質基準との適合
  - ・安全データシート（SDS）などによる消防法で分類される危険物及び指定可燃物の種類
- 5) 安全設備・装備
  - ・換気設備の配置計画（作業箇所の全体換気と低位置換気）と作業中常時換気
  - ・警報装置等（火災感知器・煙感知器・ガス検知器）の配置計画（同報機能を有すること）
  - ・保護具の使用（防護眼鏡、送気マスクや防毒マスク、不浸透性の防護服・保護手袋・保護長靴）及び適正使用（使用方法、使用時間・回数等）
  - ・帯電防止性能を有する安全衛生保護具（防護服、保護手袋、保護長靴及びシューズカバー等）の使用
  - ・防爆性能を有する電気機器等（照明器具、電動機、変圧器、コード接続器、閉開器、分電盤、配電盤、換気設備等電気を通ずる機械）の使用と点検及び整備
- 6) 危険物の管理（保管数量の管理及び保管方法）
  - ・危険物等チェックシート（別添2-1、別添2-2）の作成及び管理



- 7) 火災発生時等の脱出・避難
  - ・二方向以上を確保した避難路や昇降口以外の非常時の脱出口設置の計画
  - ・誘導灯の配置計画
- 8) 作業従事者への教育・訓練
- 9) 施工計画書チェックリストの確認、現場チェックリストの確認（別添3）

#### 20-3-4 作業主任者の配置

関係法令に従い「作業主任者」を選任し、配置するものとする。

作業主任者を選任した場合は、作業主任者の氏名とその者に行わせる事項を作業場の見やすい箇所に掲示する等、関係労働者に周知するものとする。

#### 20-3-5 材料

共通仕様書17-4-2「材料」に次を追加する。

- (3) 塗膜除去に使用する塗膜剥離剤は、ガイドライン（案）付属資料1「土木鋼構造物用塗膜剥離剤およびこれを用いた塗膜除去工法の品質規格（暫定案）」によるものとする。ただし、剥離性については、1回の塗布で除去できる塗膜厚の基準値、塗膜除去後の塗替塗膜の耐久性・防食性は除くものとする。

#### (4) 上塗塗装の塗色

上塗塗装の塗色は下表のとおりとする。

橋名	種別	塗装箇所	上塗塗装の塗色
篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋	塗替塗装 塗替塗装(一般部) c-3-(1)	鈑桁	L22-85H 日本塗料工業会 (2021年L版) (淡色系)
	塗替塗装 塗替塗装(特殊部) g-3-(1)	添接部	
宮野木高架橋	塗替塗装 塗替塗装(一般部) c-3-(1)	鈑桁・箱桁外面	L39-80H 日本塗料工業会 (2021年L版) (淡色系)
	塗替塗装 塗替塗装(特殊部) g-3-(1)	添接部	
中長沼橋	塗替塗装 塗替塗装(一般部) c-3-(1)	鈑桁	L22-85H 日本塗料工業会 (2021年L版) (淡色系)
	塗替塗装 塗替塗装(特殊部) g-3-(1)	添接部	
木野子橋	塗替塗装 塗替塗装(一般部) c-3-(1)	鈑桁	L22-85H 日本塗料工業会 (2021年L版) (淡色系)
	塗替塗装 塗替塗装(特殊部) g-3-(1)	添接部	
三塚橋	塗替塗装 塗替塗装(一般部) c-3-(1)	鈑桁	L22-85H 日本塗料工業会 (2021年L版) (淡色系)
	塗替塗装 塗替塗装(特殊部) g-3-(1)	添接部	

また、共通仕様書17-4-2(2)に規定する上塗塗装の塗色は、(社)日本塗料工業会塗料用標準色見本帳(2021年L版)による。

## 20-3-6 施工

共通仕様書 17-4-3 「施工」に次を追加する。

### (5) 塗装されている塗料

既存塗膜及び湿潤化による塗膜除去方法は下表のとおりとする。

橋梁名	既存塗膜		塗料	塗膜除去 及び 素地調整	既存塗膜含有量（塗膜くず）			
	塗装系	履歴			PCB (mg/kg)	鉛 (wt%)	六価 クロム (wt%)	コールド タール (wt%)
篠崎 A ランプ橋	旧 A 系	再塗装 1 回目	長油性フタル酸 樹脂	塗膜剥離剤による 除去後乾式ブ ラストによる素 地調整	25000	5.9	0.3	—
	旧 A 系	再 塗 装 2 回目	シリコンアルキ ド樹脂					
篠崎 B ランプ橋	旧 A 系	再塗装 1 回目	長油性フタル酸 樹脂		18000	5.6	0.2	—
	旧 A 系	再 塗 装 2 回目	シリコンアルキ ド樹脂					
宮野木 高架橋	旧 A 系	新設時	長油性フタル酸 樹脂塗料		31	4.4	—	—
	旧 A 系	再塗装 1 回目	長油性フタル酸 樹脂塗料					
	旧 A 系	再 塗 装 2 回目	シリコンアルキ ド樹脂					
中長沼橋 上下線	旧 A 系	新設時	長油性フタル酸 樹脂塗料		4.70	4.4	0.120	—
	旧 A 系	再塗装 1 回目	長油性フタル酸 樹脂塗料					
	旧 A 系	再 塗 装 2 回目	長油性フタル酸 樹脂塗料					
木野子橋	旧 A 系	新設時	長油性フタル酸 樹脂塗料		39	4.6	0.4	—
	旧 A 系	再塗装 1 回目	長油性フタル酸 樹脂塗料					
	旧 A 系	再 塗 装 2 回目	長油性フタル酸 樹脂塗料					
三塚橋	旧 A 系	新設時	長油性フタル酸 樹脂塗料		1.6	6.1	—	—
	旧 A 系	再塗装 1 回目	長油性フタル酸 樹脂塗料					

塗膜剥離剤塗布・塗膜除去を行う回数は 2 回を想定しており、塗膜剥離剤の標準使用量は 1 回目 1 kg/m<sup>2</sup>、2 回目 0.5 kg/m<sup>2</sup> を想定している。

なお、実施にあたっては、現地における剥離状況の確認を行い、剥離剤の使用量及び除去回数等、塗膜除去工について変更する必要があると監督員が認めて工法等の変更を指示した場合、受注者はその指示に従うものとし、請負代金額の変更が必要と認められるときは、監督員と受注者とで協議するものとする。

(6) 素地調整

素地調整種別は下表のとおりとする。

橋名	素地調整の種別	摘要
篠崎Aランプ橋 篠崎Bランプ橋 宮野木高架橋 中長沼橋 木野子橋 三塚橋	1 種	

受注者は、塗膜剥離剤により既存塗膜の除去を行う場合、塗膜除去完了後に行う乾式ブラスト施工時において、鉛等有害物の濃度を十分に低下させる実用上の効果が期待できる工法を使用するものとする。なお、塗膜剥離剤による既存塗膜の除去程度は、特殊部や狭隘部などの塗膜除去困難部を除き、黒皮又は鋼素地面を露出させるものとする。

(7) 研削材及び廃塗膜・ケレンかすの処理

1 種ケレンによる塗膜の除去及び素地調整により発生する研削材及び廃塗膜・ケレンかすの処理については本特記仕様書 1 5 - 1 「建設副産物の活用等」によるものとし、研削材及び廃塗膜・ケレンかすの処分に要する費用については、監督員と受注者との協議して定めるものとする。

(8) 安全対策

施工にあたっては、厚労省通達、関連法令及び構造物施工管理要領Ⅲ-2-1-3の規定に従わなければならない。

また、塗膜の除去作業にあたっては、作業員の安全や火災に対する安全等対策や周辺環境への影響についても考慮し、次の対策を実施する。なお、塗膜除去に有機溶剤を使用する場合の安全対策に要する費用のうち剥離材用環境対策資機材及び剥離材用安全衛生保護具については監督員と受注者との協議し定めるものとする。

(9) 塗膜剥離剤による塗膜除去作業

塗膜剥離剤による塗膜除去作業にあたっては、次の対策を実施する。

【共通事項】

- 1) ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の取扱い作業箇所については、その旨を明示すると共に、作業員以外の立ち入り禁止措置を講じる。
- 2) ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の取扱い作業は、常時、作業員の状況を把握できるような体制を確保すること。
- 3) ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の吹き付け作業と塗膜剥離剤を吹き付けた後の塗膜除去作業を近接した場所で同時に行うことは避けること。
- 4) 剥離剤を使用してかき落とした塗膜くずは、速やかに集積し、足場内に保管する場合は、小分けにし、難燃シート等により養生する。足場外には、少なくとも1日1回以上の頻度で搬出すること。また、運搬又は貯蔵を行う場合は、堅固な容器に入れる又は、確実に包装した上で、見やすい箇所に名称や取扱いの注意事項を表示する。なお、作業中は安全データシート（SDS）及び製品の取扱い説明書に示された安全上の留意点に従うこと。
- 5) 水性の塗膜剥離剤を使用する場合であっても、塗膜除去工の作業の実施箇所ごとに全体換気設備と合わせて作業箇所の低位置においても換気設備を配置し、作業開始前に十分換気し作業を開始するとともに、作業中常時使用すること。また、有効に作動するガス検知器を作業班ごとに配備し、可燃性ガスや中毒など人体に悪影響を及ぼす可能性のあるガス

が滞留しやすい低い位置で測定を行い、使用する剥離剤に応じ適切に設定した基準値を超過した場合及びその他異常を察知した場合は直ちに作業を中止し、作業員を退避させるとともに、換気等により濃度を下げる措置を行うこと。

- 6) 塗膜剥離剤は、ガイドライン（案）の品質基準に適合するものとし、安全データシート（SDS）などのより消防法で分類される危険物及び指定可燃物の種類を確認して、適切な方法で保管すること。また、塗膜剥離剤の品質基準以外の基準についてもガイドライン（案）に準拠すること。
- 7) 避難計画の作成にあたっては、二方向への避難路の確保や、昇降口以外に非常時の脱出口を設置し、煙充満時に避難誘導できる誘導灯等を避難路に設置すること。
- 8) すべての作業員に対して、安全並びに最悪事態の回避の意識の徹底・共有を図る教育を行うこと。
- 9) 施工計画書を遵守するとともに、現地条件等の変更が生じた場合は、施工計画を変更すること。また、施工計画書チェックリスト及び現場チェックリスト（別添3）を作成すること。施工計画書チェックリストをもとに、施工計画書を確認し、現場チェックリストを用いて、現地を確認すること。監督員から要請があった場合、チェックリストで確認した結果を提出するものとする。

#### 【火災対策】

- 1 0) 塗膜除去工の作業中は、作業に伴い火花が出る工具の足場内への持ち込みを禁止すること。また、電気機器（照明器具、電動機、変圧器、コード接続器、閉開器、分電盤、配電盤、換気設備等電気を通ずる機械）は防爆性能を有するものを定められた使用方法で適切に使用するものとし、点検、整備を十分に行うこと。
- 1 1) 危険物を足場内に持ち込まないこと。また、危険物等チェックシート（別添2-1、別添2-2）を作成し、危険物の管理を実施すること。監督員から要請のあった場合、チェックシートで確認した結果を提出するものとする。
- 1 2) 喫煙場所を作業場所と独立した場所に配置する。また、足場内への火気（たばこ・ライター）の持ち込みを禁止すること。また、高速道路上の走行車両からの投げタバコ等、足場内に外部から点火源が侵入しないような対策を実施すること。
- 1 3) 養生シートも含め足場内で使用する全てのシートは、難燃性能又は防災性能を有するものを使用すること。
- 1 4) 水性の塗膜剥離剤を使用する場合であっても、防爆性能を有する電気設備、帯電防止性能を有する安全衛生保護具（防護服・保護手袋・保護長靴等）を使用する。
- 1 5) 火災発生時に同一足場内のすべての作業箇所に同報できる警報機器として火災感知器・煙感知器を配置する。なお、それぞれ有効に感知できる機種を選定し、適切な位置に配置すること。

#### 【中毒対策】

- 1 6) 作業場所をビニールシート等で隔離し、通風が不十分となる場合は、作業場所内の剥離剤ガス、蒸気等の濃度が高くなることが想定されるため、換気等により濃度を下げる措置を行うこと。
- 1 7) ベンジルアルコールを含有する塗膜剥離剤の吹き付け等を行う作業者は、送気マスクを使用すること。
- 1 8) ベンジルアルコールを含有する塗膜剥離剤を吹き付けた後の塗膜除去作業は、送気マスク又は防じん機能を有する防毒マスクを使用させること。
- 1 9) ジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の吹き付け等を行う作業者は、送気マスクや防毒マスク（有機ガス用防毒マスクの型式検定合格品）を使用すること。

- 20) 防毒マスクは、使用時間及びマスクの状態を作業主任者など作業員以外の者が常時厳格に管理し、定期的に吸収缶を交換すること。
- 21) ジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤を吹き付けた後の塗膜除去作業は、送気マスク又は防じん機能を有する防毒マスクを使用すること。
- 22) 防護眼鏡、送気マスクや防毒マスク（有機ガス用防毒マスクの型式検定合格品）、不透水性の防護服・保護手袋・保護長靴などの保護具を確実に着用するとともに、防毒使用方法、使用時間・回数等を遵守する。

#### 20-3-7 増し塗り

増し塗り塗装に要する費用については、塗替塗装の契約単価に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

#### 20-3-8 数量の検測

共通仕様書 17-4-5 「数量の検測」に次を追加する。  
塗膜除去の数量の検測は、設計数量（m<sup>2</sup>）で行うものとする。

#### 20-3-9 支払

共通仕様書 17-4-6 「支払」によらず、次のとおりとする。  
塗膜除去、塗替塗装及び曲面加工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、それぞれ 1m<sup>2</sup>又は 1m 当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う湿潤化による塗膜の除去、1 種素地調整におけるケレンかす及び研削材の集積、塗装等、塗替塗装の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するのに必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

単価表の項目		検測の単位
17-(2)	塗替塗装	
	塗膜除去 A	m <sup>2</sup>

#### 20-4 構造物補修工

共通仕様書 17-9 「構造物補修工」に次を追加する。

##### 20-4-1 事前調査

受注者は、施工に先立ち各施工箇所におけるコンクリート構造物の劣化損傷状況について、近接目視及び打音による調査を行い、補修範囲の特定し、施工条件、施工方法、設計図と現地の相違点等、それらの結果を監督員に報告し、その指示を受けるものとする。なお、これらに要する費用は、関連する契約単価に含むものとし別途支払いは行わないものとする。

##### 20-4-2 断面修復工

###### 20-4-2-1 種別

共通仕様書 17-9-3 (2) 「種別」の単価表の項目に、下表を追加する。

単価表の項目	区分内容	備考
A1-1	コンクリート構造物の欠損箇所の整形、鉄筋のケレン及び防錆剤の塗布、断面修復材付着面へのプライマー塗布を行い、左官工法により断面修復材にて修復することをいい、固定足場上で施工を行うもの。	中長沼橋

## 20-4-2-2 材料及び施工

共通仕様書 17-9-3 (3) 「材料」、(4) 「施工」によらず次のとおりとする。

### (3) 材料

- ①断面修復工に使用する材料は、構造物施工管理要領Ⅲ-3-3-2～5の規定に適合するものでなければならない。
- ②鉄筋の塗布による防錆処理は亜硝酸塩系の防錆剤を標準とする。
- ③プライマーは、使用する断面修復材に定める施工要領書によるものとする。
- ④構造物の部位ごとに使用する断面修復材は、下表の基準を満足するものとする。

構造物名	部位	材令28日における圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	摘 要
中長沼橋	上部工	24.0	

### (4) 施工

断面修復工の施工は、構造物施工管理要領Ⅲ-3-3-6～9の規定に従い行うものとする。

## 20-4-2-3 支払

共通仕様書 17-9-3 (6) 「支払」によらず次のとおりとする。

断面修復工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 L当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う断面欠損面の清掃・整形、鉄筋のケレン・防錆剤の塗布、断面修復材による修復等断面修復工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成させるために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
17-(29)	断面修復工 A1-1	L

## 20-4-3 コンクリート表面処理工

### 20-4-3-1 施工

共通仕様書 17-9-4 (2) 「施工」によらず、次のとおりとする。

- ①コンクリート表面処理工の施工は、構造物施工管理要領Ⅲ-3-1-1の規定に従い行うものとし、WJ工法によることを基本とする。ただし、WJ工法を用いることが困難な狭隘な箇所、光ケーブル等の支障物近接箇所は、ディスクサンダー工法を用いるものとする。
- ②コンクリート表面処理工による施工は、本体構造物及び支障物等に損傷を与えないように慎重に行うものとする。
- ③WJ工法による表面処理工は、清水を使用すること。
- ④WJ工法による回収（汚濁）水は沈殿槽に貯水し排水時においてその水質は、各自治体が定める基準に適合しなければならない。なお、回収（汚濁）水の沈殿槽への貯水及び水質調整等に要する費用は関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わない。
- ⑤回収（汚濁）水から分離した汚泥の処分については、関連する法令に基づき適切に処理しなければならない。なお、汚泥の処分に要する費用については、別途、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。
- ⑥施工中の飛散防止対策に要する費用は関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

## 20-5 はく落防止対策工

### 20-5-1 種別

共通仕様書 17-10-2「種別」の単価表の項目に、下表を追加する。

単価表の項目	区分内容	摘要
B 1	既設のコンクリート構造物にはく落防止対策層を設けるもので、移動足場上で施工を行うもの。	宮野木高架橋 中長沼橋
B 2	既設のコンクリート構造物にはく落防止対策層を設けるもので、固定足場上で施工を行うもの。	

### 20-5-2 材料及び施工

共通仕様書 17-10-4「はく落防止対策工B」に下記を追加する。

#### ① 水抜き

はく落防止対策工の施工に際し、耐食・耐候性を有する水抜きパイプ（硬質塩化ビニル管及びポリプロピレン管等）を設置するものとする。設置位置については、監督員の指示及び設計図書に従うものとする。

### 20-5-3 支払

共通仕様書 17-10-6「支払」によらず次のとおりとする。

はく落防止対策工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、それぞれ 1 m<sup>2</sup> 当たりの契約単価で行うものとする。

はく落防止対策工Bの契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う水抜きの設置、プライマー塗布、はく落防止対策層、仕上げ塗り等既設のコンクリート構造物へのはく落対策工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成させるために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
17-（31）	はく落防止対策工	
	B 1	m <sup>2</sup>
	B 2	m <sup>2</sup>

20-6 交通規制工

20-6-1 種別

共通仕様書19-3-2「種別」に下表を追加する。なお、交通規制工の種別における交通規制箇所、交通規制内の施工内容に関する単価表の項目については設計図に示す数量総括表のとおりとする。

単価表の項目	区分内容	規制時間	備考
一車線規制 $L \times N \times M \times T \cdot A1$	「道路保全要領（路上作業編）」に規定する走行車線規制及び追い越し車線規制をいい、設計図に示す交通規制図に基づき実施するもの。	08:00～18:00 (09:00～17:00)	
一車線規制 $L \times N \times M \times T \cdot A3$	「道路保全要領（路上作業編）」に規定する走行車線規制及び追い越し車線規制をいい、設計図に示す交通規制図に基づき実施するもの。	21:00～翌06:00 (22:00～翌05:00)	
二車線規制 $L \times N \times M \times T \cdot A2$	「道路保全要領（路上作業編）」に規定する走行車線規制及び追い越し車線規制をいい、設計図に示す交通規制図に基づき実施するもの。	20:00～翌06:00 (21:00～翌05:00)	
中央分離帯規制 $L \times N \times M \times T \cdot A1$	「道路保全要領（路上作業編）」に規定する中央分離帯規制をいい、設計図に示す交通規制図に基づき実施するもの。	08:00～18:00 (09:00～17:00)	
中央分離帯規制 $L \times N \times M \times T \cdot A3$	「道路保全要領（路上作業編）」に規定する中央分離帯規制をいい、設計図に示す交通規制図に基づき実施するもの。	21:00～翌06:00 (22:00～翌05:00)	
固定規制 $L \times N \times A$	「道路保全要領（路上作業編）」に規定に準拠し、路肩に固定規制を設置及び保守することをいい、設計図に示す交通規制図に基づき実施するもの。	08:00～18:00 (09:00～18:00)	
固定規制 $L \times N \times B$	「道路保全要領（路上作業編）」に規定に準拠し、固定規制を保守することをいい、設計図に示す交通規制図に基づき実施するもの。	18:00～翌08:00 (18:00～翌08:00)	
固定規制 $L \times N \times C$		08:00～18:00 (08:00～18:00)	
固定規制 $L \times N \times D$	「道路保全要領（路上作業編）」に規定に準拠し、路肩に固定規制を保守及び撤去することをいい、設計図に示す交通規制図に基づき実施するもの。	08:00～18:00 (08:00～17:00)	

①L、N、Mは、共通仕様書19-3-5「支払」に示す 注1)～注3)のとおり。

②Tは、1回当たりに設置するテーパー箇所数を示す。



③上表の規制時間とは、1回当たりとして検測する交通規制工のうち、規制設置開始（標識設置開始）から規制撤去完了（標識撤去完了）までの時間である。

④（ ）内の時間は、交通規制内の施工可能時間（休憩時間を含む）を示す。

⑤交通規制に係る監視及び保守を行う交通監視員及び交通監視員の休憩時間等の交替要員については、交通規制工に含むものとする。

なお、受注者の責によらず、交通規制箇所及び交通規制時間が大幅に変更となった場合は、これらに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

## 20-6-2 支払

共通仕様書19-3-5「支払」に次を追加する。

固定規制 $L \times N \times A$ の単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う交通規制材の設置、保守、仮設防護柵における基本料、整備料及び基地から現場までの運搬費等固定規制 $L \times N \times A$ の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

固定規制 $L \times N \times B$ 及び $C$ の単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う固定規制の保守等固定規制 $L \times N \times B$ 及び $C$ の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

固定規制 $L \times N \times D$ の単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う交通規制材の保守、撤去、仮設防護柵における基本料、整備料及び現場から基地までの運搬費等固定規制 $L \times N \times D$ の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
19-(1)	交通規制工	
	一車線規制 $L \times N \times M \times T \cdot A1$	回
	一車線規制 $L \times N \times M \times T \cdot A3$	回
	二車線規制 $L \times N \times M \times T \cdot A2$	回
	中央分離帯規制 $L \times N \times M \times T \cdot A1$	回
	中央分離帯規制 $L \times N \times M \times T \cdot A3$	回
	固定規制 $L \times N \times A$	回
	固定規制 $L \times N \times B$	回
	固定規制 $L \times N \times C$	回
	固定規制 $L \times N \times D$	回

## 20-7 交通保安要員

### 20-7-1 種別及び配置

(1) 共通仕様書 19-4-2 「種別」に下表を追加する。

単価表の項目	配置時間	備考
交通監視員 A 1	09:00～17:00	
交通監視員 A 2 (夜)	21:00～翌05:00	
交通監視員 A 3 (夜)	22:00～翌05:00	
交通監視員 A 4	08:00～17:00	
交通誘導警備員 A (夜)	20:00～翌06:00	
交通誘導警備員 B (夜)	20:00～翌06:00	

上表の配置時間は、作業時間（休憩時間を含む）とする。なお、受注者の責によらず、交通保安要員の配置時間が大幅に変更となった場合、これに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

(2) 交通保安要員の配置場所、配置人数、交代要員は次のとおりとする。

配置場所		交通保安要員の種別	配置人数	交替要員	摘要
東関東自動車道 四街道 I C～酒々井 I C ・一車線規制 L×N×M×T・A 1	・工事車両入口 ・工事車両出口 ・作業箇所	交通監視員 A 1	1人	—	
新空港自動車道 成田 I C～新空港 I C ・一車線規制 L×N×M×T・A 1	・工事車両入口 ・工事車両出口 ・作業箇所	交通監視員 A 1	1人	—	
京葉道路 武石 I C～穴川 I C ・一車線規制 L×N×M×T・A 3 (夜)	・工事車両入口 ・工事車両出口 ・作業箇所	交通監視員 A 3 (夜)	1人	—	
東関東自動車道 四街道 I C～酒々井 I C ・二車線規制 L×N×M×T・A 2 (夜)	・工事車両入口 ・工事車両出口 ・作業箇所	交通監視員 A 2 (夜)	1人	—	
東関東自動車道 四街道 I C～酒々井 I C ・中央分離帯規制 L×N×M×T・A 1	・工事車両入口 ・工事車両出口 ・作業箇所	交通監視員 A 1	1人	—	
新空港自動車道 成田 I C～新空港 I C ・中央分離帯規制 L×N×M×T・A 1	・工事車両入口 ・工事車両出口 ・作業箇所	交通監視員 A 1	1人	—	
京葉道路 武石 I C～穴川 I C ・中央分離帯規制 L×N×M×T・A 3 (夜)	・工事車両入口 ・工事車両出口 ・作業箇所	交通監視員 A 3 (夜)	1人	—	

配置場所		交通安全要員の種別	配置 人数	交替 要員	摘要
京葉道路 武石 I C ～ 穴川 I C ・ 固定規制 L × N × B	・ 工事車両入口 ・ 工事車両出口	交通監視員 A 4	1 人	—	
新空港自動車道 成田 I C ～ 新空港 I C ・ 固定規制 L × N × B	・ 工事車両入口 ・ 工事車両出口	交通監視員 A 4	1 人	—	
国道 1 6 号 ・ 車線規制	・ 作業箇所	交通誘導警備員 A (夜)	1 人	1 人	※ 1
	・ 規制箇所	交通誘導警備員 B (夜)	3 人		
都道江戸川堤防線 ・ 片側交互通行規制	・ 作業箇所	交通誘導警備員 A (夜)	1 人	1 人	※ 1
	・ 規制箇所	交通誘導警備員 B (夜)	3 人		
国道 1 4 号 ・ 路肩規制	・ 作業箇所	交通誘導警備員 A (夜)	1 人	—	

(※ 1) 交替要員は、交通誘導警備員 B とする。

なお、受注者の責によらず、交通安全要員の配置場所が大幅に変更となった場合、または、協議等により配置する保安要員の種別及び配置人数が変更となった場合、これらに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

## 20-7-2 支払

共通仕様書 19-4-5 「支払」に次を追加する。

単価表の項目		検測の単位
19-(2)	交通安全要員	
	交通監視員 A 1	人・日
	交通監視員 A 2	人・日
	交通監視員 A 3	人・日
	交通監視員 A 4	人・日
	交通誘導警備員 A	人・日
	交通誘導警備員 B	人・日

## 20-8 コンクリートはつり工

### 20-8-1 定義

コンクリートはつり工とは、設計図書及び監督員の指示に従って、コンクリート構造物の劣化損傷部分を、W J 工法により除去することをいう。

### 20-8-2 種別

コンクリートはつり工の単価表の項目の種別は、下表のとおりとする。

単価表の項目	区分内容	摘要
A	既設コンクリート構造物の劣化損傷部分を、W J 工法を用いたはつり処理により除去を行うことをいい、固定足場上で施工を行うもの。	中長沼橋

### 20-8-3 施工

- 1) W J 工法の施工は、構造物施工管理要領Ⅲ-3-1-2「はつり処理」の規定によるものとする。
- 2) W J 工法によるはつり処理は、本体構造物に損傷を与えないよう慎重に施工するものとする。
- 3) W J 工法によるはつり処理の断面はフェザーエッジとならないよう、カッター目地処理を行うものとする。
- 4) W J 工法によるはつり処理は、清水を使用すること。
- 5) W J 工法による回収（汚濁）水は沈殿槽に貯水し排水時においてその水質は、各自治体が定める基準に適合しなければならない。なお、回収（汚濁）水の沈殿槽への貯水及び水質調整等に要する費用は関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わない。
- 6) 回収（汚濁）水から分離した汚泥及び断面修復工により生ずるコンクリート塊の処分については、関連する法令に基づき適切に処理しなければならない。なお、汚泥の処分に要する費用については、別途、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。
- 7) 施工中の飛散防止対策に要する費用は関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。
- 8) はつり処理により構造に影響を及ぼすおそれがある劣化損傷箇所や鉄筋の著しい損傷を発見した場合は、速やかに監督員に報告し、その指示を受けるものとする。

### 20-8-4 数量の小数位

コンクリートはつり工の検測及び数量の小数位は、共通仕様書 1-31-4「数量の小数位」によらず、下表のとおりとする。

区 分	コンクリートはつり工
検測数量	小数 3 位
支払数量	小数 2 位

### 20-8-5 数量の検測

コンクリートはつり工の数量の検測は、設計数量（ $m^3$ ）で行うものとする。

### 20-8-6 支払

コンクリートはつり工の支払いは、前項の規定に従って検測された数量に対し、 $1m^3$ 当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う W J 工法によるはつり除去、清水の調達、濁水処理、はつり工により発生したコンクリート塊の施設への運搬・処分等コンクリートはつり工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
特一（1）	コンクリートはつり工	
	A	$m^3$

## 20-9 鋼桁補修工

### 20-9-1 定義

鋼桁補修工とは、設計図書及び監督員の指示に従って、損傷した既設主桁に鋼材で当て板補修を行うことをいう。

### 20-9-2 種別

単価表の項目	施工箇所	区分内容
当て板補修	東関東自動車道 中長沼橋 下り線A1 G3	既設鋼製主桁（鈑桁）端部に腐食による減肉と孔蝕が確認されたため、工場で製作した鋼材と高力ボルト等で当て板補強を行うもの。

### 20-9-3 材料

- （1）鋼桁補修工に使用する材料は、鉄鋼材料は共通仕様書10-6の各項の規定に準じるものとする。
- （2）製作した鋼材の工場塗装については、下表のとおりとする。

部位	工程	塗料または素地調整程度
既設部材接触面	前処理	素地調整 G-a
		プライマー 無機ジンクリッチプライマー
	工場塗装	2次素地調整 G-a
		下塗り 無機ジンクリッチペイント
上記以外の面	前処理	素地調整 G-a
		プライマー 無機ジンクリッチプライマー

使用する塗料、標準使用量、塗装間隔及び標準膜厚は構造物施工管理要領Ⅱ-3-3、Ⅱ-3-7及びⅡ-3-8の規定に準じるものとする。

### 20-9-4 施工

- （1）鋼桁補修工の施工は、共通仕様書10-6、-7、-8、-9の各項の規定に準じるものとする。
- （2）施工に先立ち事前調査を行い、補修箇所の損傷の進行などで設計図書に示す補修内容が適当でない場合には監督員に報告し、対策を協議するものとする。これにより補修内容の変更が必要となったときには、その費用については監督員と協議を行い決定するものとする。
- （3）鋼桁補修箇所の現場塗装は、本特記仕様書20-3で規定する塗替塗装の範囲と重複するため既設塗膜の除去及び素地調整、塗装に関しては塗替塗装（特殊部）にて行うものとする。

### 20-9-5 数量の検測

鋼桁補修工の検測は、設計数量（箇所）で行うものとする。

### 20-9-6 支払

鋼桁補修工の支払いは、前項の規定に従って検測した数量に対し、1箇所当たりの契約単価で支払うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う事前調査、鋼製材料の調達と製作と防錆、製作場所から補修施工箇所までの運搬、主桁部材への墨出しと孔明け、部材設置箇所の清掃と金属パテの塗布、鋼製部材の設置、高力ボルト締付け、等鋼桁補修工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
特一（2）	鋼桁補修工 当て板補修	箇所

## 20-10 仮設防護柵工

### 20-10-1 定義

仮設防護柵工とは、設計図書及び監督員の指示に従って、本特記仕様書7-3に示す固定規制を行うため、高速道路上に設置・撤去する仮設防護柵のことをいう。

### 20-10-2 種別

仮設防護柵工の単価表の項目の種別は、次のとおりとする。

単価表の項目	区分内容
供用日当り賃料	規制内に設置している水充填型仮設防護柵に要する供用日当り賃料をいう。

### 20-10-3 材料

仮設防護柵工に使用する材料は、次のとおりとする。

項 目	材料規格等	材料区分	調達地域	設置期間
供用日当り賃料	水充填型仮設防護柵 ・H=800mm、赤色及び白色 ・水、水充填用器具、連結用器具含む	レンタル品	千葉県	宮野木高架橋 6.8ヶ月 三塚橋 1.7ヶ月

受注者の責によらず、仮設防護柵の設置期間に大幅な変更が生じた場合は、これに要する費用について監督員と協議し定めるものとする。

また、上表における設置期間とは、本工事における設置開始から撤去完了までの期間をいう。

### 20-10-4 施工

- (1) 仮設防護柵を設置する際は、転倒を生じないよう事前に設置箇所の確認を行うものとする。
- (2) 受注者は、工事着手前に設計図書及び監督員の指示に従い、具体的な保守工の実施計画について、施工計画書に記載し監督員に提出するものとする。また、受注者は実施日時、対応内容等を記載した保守工実施報告書（任意様式）を作成し、監督員に提出するものとする。

### 20-10-5 数量の検測

供用日当り賃料の数量の検測は、供用日（箇所・日）で行うものとする。

### 20-10-6 支払

仮設防護柵工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1箇所・日当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う仮設防護柵の賃料等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
特一(3)	仮設防護柵工 供用日当り賃料	箇所・日

## 2.1. 割掛対象表の項目に示す工事の内容

対象表の項目に示す工事の内容は、共通仕様書第1章「表1－3 割掛対象表の項目に示す工事の内容」による他、次のとおりとする。なお、これに要する費用は関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。

割掛対象表の項目名称	工事内容等
<b>【共通仮設費】</b>	
剥離剤用環境対策資機材費	塗膜剥離剤による有害物質を含む旧塗膜の除去工の施工に必要なもの、簡易セキューリティールーム、エアシャワー・負圧集塵機・真空掃除機（フィルター交換に要する費用を含む）、吸気用ダクト及び排気用ダクトの設置に要する費用をいう。
剥離剤用安全衛生保護具費	塗膜剥離剤による有害物質を含む旧塗膜の除去工の施工に必要なもの、呼吸用保護具（送気装置、フィルター交換に要する費用を含む）、使い捨て防護服（タイプ4）、防護手袋及びシューズカバーに要する費用をいう。なお、呼吸用保護具本体はエアラインマスクとする。
<b>【準備工事費】</b>	
立入防止柵撤去復旧費	施工及び資機材の搬入に支障となる立入防止柵の撤去、保管、復旧に要する費用をいう。
<b>【仮設備工事費】</b>	
剥離剤用養生設備工費	塗膜剥離剤による有害物質を含む旧塗膜の除去工の施工に必要なもの、吊り足場及び橋脚足場の床面・側面に、シート張防護を設置する作業に要する費用をいう。
塗装用養生設備工費	塗装の際、床版コンクリート下面にシート張防護を設置する作業に要する費用をいう。

## 2.2. 補足事項

### 2.2-1 設計図書の変更及び追加について

次に示す事項については、現在関係機関と協議中であり、関連する工事の設計内容を変更する可能性があるため、受注者は監督員と緊密な連絡を取ると共に、これについて監督員の指示があった場合は速やかにその指示に従うものとし、これらに要する費用は監督員と受注者で協議して定めるものとする。

- (1) 快適トイレを追加する場合がある。
- (2) 点検結果等により、変状の補修を追加する場合がある。

### 2.2-2 工事記録の作成及び提出について

#### (1) 工事記録情報

受注者は、工事記録収集システムヘデータ入力完了後、別添様式－6「工事記録情報 完了届」をしゅん功届提出予定の2週間程度前までに監督員に提出し、その後入力データの照査を受け、監督員が発行する「工事記録情報 チェック結果票」にて照査の結果の通知を受けるものとする。

なお、工事記録収集システムに関する問合せは、「保全情報管理員」に問合せるものとし、問合せ先については別途監督員より通知する。

### 2.2-3 車両制限令を超える車両の通行に関する通行許可の確認結果の提出

受注者は、共通仕様書1－6.2「交通安全管理」（5）における確認については、許可証の原本やオンライン申請においてはダウンロードした電子ファイルデータで確実に確認し、その確認結果を監督員に提出するものとする。

#### 2 2 - 4 緊急時の協力業務

本工事期間中に千葉管理事務所管内の高速道路において、災害等が発生した場合は、監督員の指示に従い災害復旧に協力するものとする。これに要する費用については、別途、監督員と受注者で協議するものとする。

#### 2 2 - 5 有料道路料金費に関する事項

有料道路料金費とは、E T C (Electronic Toll Collection System) が整備されているインターチェンジ等を E T C 無線通信により走行するために要する通行料金をいう。また、監督員の指示により有料道路通行区間を変更する場合、または、通行料金体系が見直しとなった場合は、これに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

#### 2 2 - 6 間接工事費の変更

##### 2 2 - 6 - 1 対象となる項目

本工事は、間接工事費のうち「共通仮設費（率分）のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労務管理費」の次に示す費用（以下「実績変更対象費」という。）について、工事実施にあたって不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保に要する方策に変更が生じ、土木工事積算基準の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終設計変更時点で設計変更する試行工事である。

- ・ 営繕費：労働者の送迎費、宿泊費、借上費  
(宿泊費、借上費については労働者確保に係るものに限る)
- ・ 労務管理費：募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤に要する費用
- ・ なお、上記に関連し発生した間接工事費について監督員が必要と判断した場合、その費用については、監督員と受注者で協議し定めるものとする。

##### 2 2 - 6 - 2 工事費構成内訳書

発注者は、契約単価合意の時（単価協議時）に本工事の当初積算における共通仮設費及び現場管理費に対する実績変更対象費の割合を工事費構成内訳書にて提示するものとする。

##### 2 2 - 6 - 3 間接工事費計画書の提出

受注者は、間接工事費の増加費用を請求する予定がある場合、工期開始の日から 1 4 日以内に、前項で示された割合を参考にして実績変更対象費に係る費用の内訳を記載した間接工事費計画書（様式—8）を作成し、監督員へ提出するものとする。

なお、工期開始の日から 1 4 日以内に間接工事費計画書（様式—8）の提出がなかった場合は、間接工事費の増加費用の請求は行えないものとする。

##### 2 2 - 6 - 4 間接工事費の増加費用の協議

- (1) 受注者は、最終設計変更時点において、実績変更対象費の支出実績を踏まえた増加費用を請求する場合は、間接工事費の増加費用に関する協議書（様式—9）〔変更間接工事費計画書及び実績変更対象費にて実際に支払った全ての証明書類（領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など）〕を監督員に提出し協議するものとする。
- (2) 受注者からの請求があった場合においては、監督員が算定した増加費用の額を記した増加費用の協議書をもって、受注者と協議するものとする。



- (3) 間接工事費の増加費用の額（増加費用に係る一般管理費等を含む）の協議は、監督員が、間接工事費増加費用見積方通知書により、受注者に対して見積書を監督員に提出するように通知するものとし、受注者はその通知に従い間接工事費増加費用見積書（様式－１０）を監督員に提出し協議するものとする。
- (4) 間接工事費の増加費用の額について、監督員からの間接工事費増加費用の負担額協議書により受注者は同意書（様式－１１）を監督員に提出するものとする。
- なお、協議開始の日から２８日以内に協議が整わない場合には、監督員が定め、受注者に通知する。

#### ２２－６－５ 受注者の責めに帰す事由の増加費用

受注者の責めによる工事工程の遅れ等受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。

#### ２２－６－６ 実績変更対象費に基づく間接工事費の増加費用の算定

実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合の増加費用の算定については、次のとおりとする。

- ① 共通仮設費率分は、土木工事積算基準に基づく算出額から間接工事費計画書（様式－８）に記載された共通仮設費率分の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を加算して算出する。
- ② 現場管理費は、土木工事積算基準に基づく算出額から間接工事費計画書（様式－８）に記載された現場管理費の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を加算して算出する。
- ③ 間接工事費の増加費用は、一般管理費等の費用を含む。
- ④ なお、全ての証明書類の提出がない場合であっても提出された証明書類をもって金額の変更を行うものとする。

#### ２２－７ 実績価格調査票

受注者は、契約締結後、見積活用方式に係る見積対象項目に対し下請契約したとき、または、現場組織が構築されたときは、本工事の入札前に提出した最終参考見積書と契約後の実態に基づく比較を行う「実績価格調査票（別添－４）」を作成し提出するものとする。なお、監督員は、提出された実績価格調査票に疑義がある場合は、施工体制点検などの場を活用して受注者や下請負人に聞き取り調査を行うものとする。

#### ２２－８ 虚偽申告

受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び競争参加資格停止等の措置を行う場合がある。

#### ２２－９ 疑義

疑義が生じた場合は、監督員と協議を行うものとする。

## 2 2 - 1 0 遠隔立会

遠隔立会とは、遠隔立会実施要領（令和 5 年 1 0 月 東日本高速道路株式会社）に基づき、共通仕様書「1 - 2 用語の定義」に定める「確認」及び「1 - 3 0 検査及び立会い」に定める検査及び立会いについて、デジタル通信技術を活用し遠隔地からの確認、検査及び立会いの実施により、受注者及び発注者の工事等管理業務の効率化による生産性向上を図るものである。

遠隔立会の実施有無、実施項目、費用等については、工事着手前に監督員と協議し定めるものとする。



様式－ 2

令和 年 月 日

監督員

殿

現場代理人

## 工事履行報告書（令和〇年〇月分）

(工事名)

標記工事の出来高報告及び工程表を別添のとおり作成しましたので、報告します。

以 上

### 《注意事項》

- ・別添の工程表は、様式－ 1 とする。
- ・Kcube2 による提出とする。

工事出来高報告（令和〇年〇月）

工期

自) 令和 年 月 日  
至) 令和 年 月 日

(〇〇〇日間)

項 目	設計数量	契約金額	換算率 (%)	累 計 出来高 (%)	前 月 出来高 (%)	今 月 出来高 (%)	摘 要
準備工							
〇〇							
〇〇							
〇〇							
〇〇							
〇〇							
後片付け							
全 体							

令和 年 月 日

監督員	副監督員	主任補助監督員	補助監督員

残 存 物 件 調 書 （受注者→監督員）

- 1 工 事 等 名
- 2 工事等場所
- 3 発生（受領）年月日
- 4 原因名及び原因発生年月日

品 名	材 質 (規 格 等)	概 算 数 量		発生材、貸付発生 材又は不要材料 の種別記入	物品又は固定 資産の分類
		単位	数量		

以上のとおり報告します。  
監督員 ○○○○殿

受 注 者 △△△△  
現場代理人 ◇◇◇◇

- （注） 1．発生年月日は受渡日を記入する。  
2．原因別に一葉ずつ作成する。  
3．写真を添付する。  
4．「発生材、貸付発生材又は不要材料の種別記入」「物品又は固定資産の分類」はNEXCOが記入  
5．Kcube2による提出とする

様式－４

令和 年 月 日

〇〇リサイクルセンター〇〇工場  
管理責任者 〇〇 〇〇 殿

受注者名  
現場代理人

再生資材供給可能量の照会について

本工事では再生資源の利用促進のため再生資材の利用を予定しております。  
つきましては、円滑な使用計画に基づき施工を行いたいので下記のとおり供給可能量の情報提供をお願い致します。

記

- １．工事名： 工事（工期： ～ まで）
- ２．発注者：
- ３．受注者：
- ４．再生資材の種類及び予定数量等

再生資材の種類	適用指針等	予定使用量（m <sup>3</sup> ）	使用予定月

- ５．情報の提供時期  
別紙様式により上記使用予定月の一ヶ月前までに供給可能量を F A X で情報提供をお願いします。
- ６．情報提供先及び連絡先  
受注者：  
T E L：  
F A X：  
現場代理人：  
担 当：

以 上

再生資材使用計画書

施工工程	利用用途	使用数量 ( $\text{m}^3$ )	再資源化施設			備考	使用予定数量 ( $\text{m}^3$ )	
							再生材	新材

上段 供給可能数量（－は供給可能数量が無い場合）

下段（ ）書きは使用予定数量（×については供給されない理由を備考欄に記入する）

（注）Kcube2 による提出とする



監督員

\_\_\_\_\_ 殿

受注者  
現場代理人

\_\_\_\_\_

工事記録情報 完了届

下記の工事件名について、工事記録情報の作成が完了致しましたので提出致します。

発 注 者 名			
工 事 件 名			
No.	工 種 名	工事情報(テーブル名)	数 量

(注1) 発注時より工事内容に変更が生じる場合は、変更特記仕様書や変更数量表を添付する  
(注2) Kcube2 による提出とする

様式－ 7

令和 年 月 日

東日本高速道路株式会社 関東支社  
〇〇管理事務所長 殿

会社名  
代表者

## 不動産貸付申請書

工事名) 〇〇自動車道 〇〇工事

特記仕様書〇－〇の規定に基づき、貴社所有の不動産を下記のとおり貸付けていただきたく、申請いたします。

### 記

1. 不動産の種類
2. 不動産の所在地
3. 不動産の使用目的
4. 必要面積
5. 貸付希望期間
6. 添付書類
  - 工事請負契約書（写）
  - 特記仕様書（写）
  - 用地使用計画書

以 上

令和 年 月 日

監督員

殿

受 注 者

現場代理人

印

間接工事費計画書の提出について

(工事名)

標記工事について、特記仕様書「〇. 間接工事費の変更について」に基づき下記のとおり提出します。

記

## 【間接工事費計画書】

費目		費用	内容	計上額（円）
共通仮設費	営繕費	借上費	現場事務所、試験室、労働者宿舍、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げに要する地代及びこれらの建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げする場合に要する費用	
		宿泊費	労働者が、旅館、ホテル等に宿泊する場合に要する費用	
		労働者送迎費	労働者がマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送（水上輸送を含む）をするために要する費用（運転手賃金、車両損料、燃料費等含む）	
	小計			
現場管理費	労務管理費	募集及び解散に要する費用	労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費、労働者の帰省手当	
	賃金以外の食事、通勤等に要する費用		労働者の食事補助、交通費の支給	
	小計			
合計				

以 上

## 《注意事項》

- ・ Kcube2 による提出とする。

令和 年 月 日

監督員

殿

受 注 者  
現場代理人

印

間接工事費増加費用の負担額に関する協議書

(工事名)

標記工事について、特記仕様書「〇. 間接工事費の変更について」に基づき下記のとおり協議します。

記

1. 契約締結年月日      令和 年 月 日

2. 契約番号

3. 工 期

1) 当初工期      自) 令和 年 月 日  
至) 令和 年 月 日

2) 変更工期      自) 令和 年 月 日  
至) 令和 年 月 日

4. 協議額      ¥ \_\_\_\_\_ 円  
(増加費用に係る一般管理費等を含まない)

5. 協議額内訳      別添「変更間接工事費計画書」のとおり

以 上

《注意事項》

- ・Kcube2 による提出とする。

# 変更間接工事費計画書

(工事名)

(円)

費目		費用	内容	当初計上額	変更計上額	差額
共通仮設費	営繕費	借上費	現場事務所、試験室、労働者宿舍、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げに要する地代及びこれらの建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げする場合に要する費用			
		宿泊費	労働者が、旅館、ホテル等に宿泊する場合に要する費用			
		労働者送迎費	労働者がマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送(水上輸送を含む)をするために要する費用(運転手賃金、車両損料、燃料費等含む)			
	小計					
現場管理費	労務管理費	募集及び解散に要する費用	労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費、労働者の帰省手当			
		賃金以外の食事、通勤等に要する費用	労働者の食事補助、交通費の支給			
	小計					
	合計					

※ 実績変更対象費にて実際に支払った全ての証明書類(領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など)を合わせて提出すること。

令和 年 月 日

監督員

殿

受 注 者

現場代理人

印

間接工事費増加費用見積書

(工事名)

令和 年 月 日付け  
積りいたします。

号をもってご通知のあった標記については、下記のとおり見

記

間接工事費増加費用 (一般管理費等を含まない額)	円
上記に係る一般管理費等	円
合計	円

以 上

《注意事項》

- ・ Kcube2 による提出とする。

令和 年 月 日

監督員

殿

受 注 者  
現場代理人

印

間接工事費増加費用の負担額同意書

(工事名)

令和 年 月 日付け 号で協議のありました間接工事費増加費用の負担額について  
は同意致します。

以 上

《注意事項》

- ・ Kcube2 による提出とする。

(様式－１２)  
令和 年 月 日

監督員

殿

受注者  
現場代理人

印

材料調達変更計画書の提出について

(工事名)

---

標記工事について、特記仕様書〇－１に基づき、提出致します。

記

(添付書類)

- ・材料調達変更計画書

以 上

《注意事項》

- ・Kcube2 による提出とする。



# 材料調達変更計画書

(工事名)

材料名	規格	当初契約時の調達地域等	変更後の調達地域等	変更理由等	備考
骨材					
土砂					
仮設材（鋼材）					

※実際に支払った全ての証明書類（領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など）を合わせて提出すること。

令和 年 月 日

監督員

殿

受注者

現場代理人

印

材料調達実績報告書の提出について

(工事名)

標記工事について、以下のとおり材料調達の実績について報告致します。

記

対象材料

対象単価項目 (1)	調達予定数量 (2)	購入伝票等No (3)	調達 年月日 (4)	調達数量 (5)	調達単価 (6)	資材調達 金額 (7) (5) * (6)	輸送金額 (8)

※購入伝票等は、別添のとおりとする。

《注意事項》

- ・ Kcube2 による提出とする。

令和 年 月 日

監督員

殿

受注者

現場代理人

取得報告書

(工事名)

標記工事について、下記のとおり現場閉所の実績を報告いたします。

記			
項 目	内 容	日 数	備 考
対象期間	①令和○年○月○日 ～ 令和○年○月○日 着工日 ～ 工事完成日	日間	
	②年末年始（12/29～1/3）及び夏期休暇（3日）の期間	日間	
	③工事一時中止（工事全部を中止）期間	日間	
	④工場製作のみを実施している期間	日間	
	⑤交通規制を伴う施工のみの工事で交通規制を行って はならない期間	日間	
	⑥その他、設計図書における対象外となる期間	日間	
	対象期間（A）＝①－②－③－④－⑤－⑥	日間	
現場閉所日	⑦土曜・日曜・祝日、長期休暇（GW等）に現場閉所 を実施した日数 ※上記②～⑥を除く	日間	
	⑧平日の降雨・降雪等により現場閉所した日数 ※上記②～⑥を除く	日間	
	現場閉所日数（B）＝⑦＋⑧	日間	
現場閉所率	現場閉所率＝B／A	%	

添付：月間工程表（実績）等閉所日が確認できる資料

注 1) Kcube2 による提出とする

注 2) 対象期間については監督員に確認のうえ適切に設定すること

危険物名称	危険物数量 (全数量)	塗料メーカー及び製品名称	危険物				指定可燃物		使用期間	備考(使用方法 は施工計画書に 明記すること)
			第一石油類 【非水溶性】 (引火点21℃ 未満のもの) 指定数量:200ℓ (例)都条例5分の1 40ℓ	第二石油類 【非水溶性】 (引火点21℃ 以上で70℃未 満のもの) 指定数量:1,000ℓ (例)都条例5分の1 200ℓ	第三石油類 【非水溶性】 (引火点70℃ 以上200℃未 満のもの) 指定数量:2,000ℓ (例)都条例5分の1 400ℓ	第四石油類 【非水溶性】 (引火点200℃ 以上250℃未 満のもの) 指定数量:6,000ℓ (例)都条例5分の1 1,200ℓ	可燃性液体量	可燃性固体量		
							指定数量 :2,000ℓ	指定数量: 3000kg		

※上記管理票については、ファイリングの上、保管場所に保管し、材料の入荷毎に更新すること

危険物等チェックシート②

※チェックした年月日を箱内に記入

●事前確認

- ・共通仕様書1-25-5 危険物の取り扱いについて、その内容を確認している。
- ・危険物等の取り扱い等について、労働安全衛生規則 第256条から267条に記載があるが、その内容を確認している。
- ・工事現場内に搬入する材料及び資機材等が危険物に該当するか確認している。
- ・危険物指定数量未満の危険物の貯蔵及び取り扱いの基準は、市町村条例で定めているため、その条例を確認し、記入している。

実施者氏名:


●施工計画書

- ・危険物を用いた作業を行う場合は、保管場所、実際使用する数量、使用期間、使用方法の明記を行い、加えて、作業手順を詳細に記述した施工計画書を提出し、その手順を遵守している。

--

●管理・貯蔵

- ・危険物等チェックシートを作成して、危険物等管理責任者が管理している。

危険物等管理責任者の職務内容

- 1) 工事現場における1日あたりの危険物の取扱量と保管量の確認
- 2) 作業場所における危険物の取扱い、保管場所・方法の点検及び是正
- 3) 作業終了時に、足場内等の作業場に危険物が残置されていないかの確認。
- 4) 危険物に関する許可・届出との現場の整合についての点検及び是正

--

- ・各工事の危険物等の保管場所毎のチェックシートを入荷毎に作成(数値はその時点での総量とする。)している。


- ・チェックシートは、ファイリングのうえ、保管場所に保存し、材料の入荷毎に更新する。

- ・消防法第10条第2項で定める同一の場合は、原則として工区全体を一つの同一場所として、管理している。

ただし、防火上有効に隔てられていると認められ場合には、所轄消防署に協議のうえ、同一の場所として運用することも可能である。

●許可・届出

- ・指定数量以上の場合、市町村長の許可により危険物貯蔵所・取扱所等を設置している。
- ・指定数量の5分の1以上、指定数量未満の場合、消防長又は消防署長へ少量危険物貯蔵・取扱の届出を行っている。
- ・指定数量未満の危険物及び指定可燃物その他指定可燃物に類する物品の貯蔵又は取扱いが市町村の条例に従っている。


※チェックした年月日を箱内に記入

## 1) 計画工程表

- ・実施工程は、安全面に配慮された実施可能な工程となっている。
- ・火花が出る作業と同時期の施工の場合、可燃性ガス等影響がでない離隔がとれている計画となっている。

## 2) 安全管理体制

- ・塗膜除去工開始前に火災安全パトロールを実施することになっている。

### 3) 塗膜剝離劑

- ・土木研究所資材土木鋼構造物用塗膜剥離剤ガイドライン(案)改定2版1土木鋼構造物用塗膜剥離剤およびこれを用いた塗膜除去工法の品質規格(暫定案)」の規定を満足している製品である。
  - ・使用する剥離剤が危険物及び指定可燃物に該当しないか根拠資料とともに記述している。
- 危険物かどうかは「危険物等チェックシート」を用いて確認する。

#### 4)塗膜剝離作業

- ・塗膜剥離作業中は、作業に伴い火花が出る工具の足場内への持ち込みを禁止している。
- ・電気機器(照明器具、電動機、変圧器、コード接続器、開閉器、分電盤、配電盤、換気設備等電気を通ずる機械)は防爆性能を有するものを使用するものとしている。
- ・電気機器の点検、整備及び使用方法が定められ、点検、整備を十分行うこととなっている。
- ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、帯電防止性能を有する防護服及びシューズカバー等を使用する。
- ・養生シートも含め足場内で使用する全てのシートは、難燃性能又は防炎性能を有するものを使用することとなっている。
- ・かき落とした塗膜くずは、速やかに集積し、足場内に保管する場合は、小分けにし、難燃シート等により養生することになっている。
- ・集積した塗膜くずは、足場外に、少なくとも1日1回以上の頻度で搬出することになっている。
- ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、電気設備は防爆性能を有するものを使用することとなっている。
- ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、全体換気設備についてはブッシュ・ブル換気の計画となっており、作業中は常時使用することになっている。
- ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、全体換気その他に換気設備を塗膜剥離作業の実施箇所ごとの低位置に配置し、

- ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、塗膜くずから発生するガスの種類を把握しているか。
- ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、常時換気と併せて、塗膜くずから発生するガスを検知できるガス検知器を作業班ごとに配備し、可燃性ガスが滞留しやすい低い位置で測定を行うこととなっている。
- ・夜間等に換気を停止した場合、作業開始前に十分な換気を行うなど十分な対策を行っている。
- ・可燃性ガスが適切に設定した基準値を超過した場合及びその他必要な異常を察知した場合は、直ちに作業を中止、作業員を退避させるとともに、換気等により濃度を下げる措置を行うことになっている。

# 施工計畫書

## 現場確認

实施者氏名:

实施者氏名

--	--

1000

1000

1000

1000

1000

111

1000

--	--

--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

--	--

--	--

--	--

--	--

塗膜除去工に関する施工計画書チェックリスト(2/2)

5) 危険物の管理(保管数量の管理及び保管方法)

- ・危険物の取扱い(数量、保管方法、管理方法等)について、「危険物等チェックシート」に記載している。また、実際の現場が計画通りになっている。
- ・足場内に危険物や有機溶剤を持ち込まないことになっている。

施工計画書	現場確認

6) 現場における喫煙等

- ・喫煙場所を作業場所と独立した場所に定めている。
- ・足場内への火気(たばこ・ライターなど)の持ち込みを禁止し、確認方法について記載がある。また、実際の現場が計画通りになっている。
- ・喫煙場所を示す表示、注意事項(火気厳禁など)などを現地に掲示することになっている。
- ・外部からの投げタバコが、作業内に入らない措置をすることになっている。


7) 最悪事態の回避

- ・火災発生時に同一足場内のすべての作業箇所に同報できる警報機器を配置することになっている。
- ・火災を感知する方法として効果的な感知方法(例えば煙感知式)などが採用されている。
- ・火災発生時に同一足場内のすべての作業箇所に同報できる警報機器として火災感知器・煙感知器を配置することになっている。
- ・警報機器は、それぞれ有効に感知できる機種を選定している。
- ・警報機器は、適切な位置に配置することになっている。
- ・避難計画の作成にあたっては、二方向への避難路を確保し、煙充滿時に避難誘導できる誘導灯等を避難路に設置することになっている。
- ・避難距離が長く、安全に避難できないことが懸念される場合は、昇降口以外に非常時の脱出口の設置が計画されている。(避難梯子など)
- ・消火器が、通行時・避難時の支障にならない位置に20m以内の適切な間隔で配置する計画となっている。


8) 作業従事者への教育・訓練

- ・塗膜除去工の作業開始前にすべての作業員に火災安全に関する安全並びに最悪事態の回避の意識の徹底・共有を図る教育を行うことになっている。
- ・新規入場者への教育についても火災安全に関する安全並びに最悪事態の回避の意識の徹底・共有を図る教育を行うことになっている。
- ・毎日、朝礼時に、作業員全員で、避難ルートを確認することになっている。
- ・火災時の状況によっては、避難を優先することを安全教育となっている。


提出日：令和 年 月 日

監督員

殿

受 注 者 名  
現 場 代 理 人 (印)

実績価格調査票の提出について

工事名)  
標記工事について、見積対象項目に関する調査票を提出します。

番号	項目番号	名称	単位	数量	参考見積書		実績価格	
					単価	金額	単価	金額
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
		経費	式	1				
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								

注 1) Kcube2 による提出とする